



UN World Conference on  
Disaster Risk Reduction  
2015 Sendai Japan

B

## 実行委員会の取り組み

# 1 本体会議支援

実行委員会では、本体会議の円滑な運営を支援するため、宿泊手配、交通輸送、警備・危機管理、消防・救急・医療、語学ボランティアなど、関係団体・機関の協力の下、幅広い取り組みを行った。

## 1-1 宿泊手配

本体会議参加者に円滑に宿泊先を確保し、安定的かつ効率的な宿泊サービスを提供するため、平成25年12月、宿泊予約センターを設置。仙台市内44ホテルをオフィシャルホテルに指定するとともに、約3,000室を確保して手配業務を行った。

チェックインが始まった3月3日～23日の21日間で1日の利用室数が最大となったのは3月14日の2,781室で、延べ14,380室の利用があった。また、利用者数は3月14日の2,876人が最大となり、20日間の累計は14,744人であった。

なお、パブリック・フォーラムの主催者や参加者については、実行委員会ホームページに宿泊・観光情報のポータルサイトを設け、東北六県の宿泊・観光情報を提供した。

### ■宿泊予約センター運営の経過

平成25年12月
ホームページ開設。メールおよびFAXでの問合せ窓口である「宿泊予約センター」の設置。
平成26年8月
政府代表団の宿泊予約開始。
平成26年12月
政府代表団およびメディアを除く会議参加者の宿泊予約を開始。
平成27年1月下旬
メディア向けの宿泊予約を開始。
平成27年3月
仙台市内に宿泊予約サポートセンターを設置。3月13日より、ウェスティンホテル仙台、ホテルメトロポリタン仙台、仙台国際ホテル、ホテルモントレ仙台、仙台ワシントンホテル、ホテルJALシティ仙台、ホテルモンテエルマーナ仙台の7ホテルにトラベルデスクを設置。

### ■オフィシャルホテル一覧

1	ウェスティンホテル仙台
2	三井ガーデンホテル仙台
3	ホテルメトロポリタン仙台
4	ホテルモントレ仙台
5	仙台国際ホテル
6	ホテルグランテラス仙台国分町
7	ドーミーイン仙台 ANNEX
8	ANAホリデイイン仙台
9	ホテルレオパレス仙台
10	ホテルモンテエルマーナ仙台
11	ダイワロイネットホテル仙台
12	メルパルク仙台
13	江陽グランドホテル
14	ドーミーイン EXPRESS 仙台広瀬通
15	ホテルクラウンヒルズ仙台青葉通
16	ライブラリーホテル東二番丁
17	仙台ワシントンホテル
18	ベストウェスタンホテル仙台
19	ホテルプレミアムグリーンヒルズ
20	ホテルJALシティ仙台
21	第一インパーク
22	アパヴィラホテル仙台駅五橋
23	ホテルプレミアムグリーンプラス
24	ホテルプレミアムグリーンソブリン
25	仙台サンプラザホテル
26	ホテルグリーンマーク
27	ホテルグリーンセレクト
28	ホテルグリーンパシフィック
29	ホテルグリーンウィズ
30	ホテルベルエア仙台
31	ホテツグリーンアーバ
32	ホテルグリーンライン
33	ホテルグリーンシティ
34	東横 INN 仙台駅西口中央
35	東横 INN 仙台西口広瀬通
36	ホテルセントラル仙台
37	ホテルユニサイト仙台
38	ホテルルートイン仙台泉インター
39	ホテルルートイン仙台長町インター
40	アークホテル仙台青葉通り
41	ホテル法華クラブ仙台
42	ユニゾイン仙台
43	ホテルパールシティ仙台
44	ロイヤルメイフラワー仙台

## 1-2 交通輸送

### 1-2-1 シャトルバスの運行

本体会議参加者の滞在中の快適な移動を支援するため、シャトルバス(4系統)を運行。本体会議参加者はIDカードを提示することにより乗車が可能。また、3月15日～17日は、「防災産業展」を主催した宮城県により、会場の夢メッセみやぎと本体会議場やJR仙台駅などを結ぶシャトルバス(2系統)も運行された。



JR仙台駅東口のシャトルバス乗り場

#### ■シャトルバスの系統と利用状況

(人)

①オフィシャルホテルー本体会議場 (10 ルート)						
3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	計
892	2,076	1,669	1,387	1,254	604	7,882
②本体会議場ー東北大学川内萩ホールーせんだいメディアテークの巡回						
3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	計
—	219	223	244	188	103	977
③ JR 仙台駅ー本体会議場						
3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	計
305	951	797	702	693	457	3,905
④レセプション会場ー本体会議場 (2 ルート)						
3月13日	3月14日* 1	3月15日* 2	3月16日	3月17日	3月18日	計
—	368	242	—	—	—	610

\*1 仙台ロイヤルパークホテルー本体会議場

\*2 ホテルメトロポリタン仙台ー本体会議場

#### ■「防災産業展」シャトルバス(2系統)

##### ①本体会議参加者向け

本体会議場ーせんだいメディアテークー夢メッセみやぎ

##### ②一般参加者向け

JR仙台駅ー勾当台公園ー夢メッセみやぎ

### 1-2-2 ハイヤー・タクシーの手配

3月13日～18日、VIP用ハイヤー(中型セダン)および事務局用ハイヤー(ワゴン車)の手配を行った。

また、本体会議参加者などを対象に、急を要する移動やシャトルバス・市営バスなどの運行時間帯以外の移動手段を確保するため、24時間体制でタクシーの手配を行った。手配したタクシーでの移動区間は、青葉山交流広場・駐車場、せんだいメディアテーク、東北大学川内萩ホール、オフィシャルホテル間を原則とした。仙台防災枠組の策定に係る議論が連日、深夜まで行われたことから6日間で延べ900台のタクシーが利用された。

### 1-2-3 福祉車両の提供

アクセシブル・カンファレンス(障害者を含むすべての人にとって参加しやすい会議)の一環として3月14日～18日、青葉山交流広場・駐車場、せんだいメディアテーク、東北大学川内萩ホール、オフィシャルホテル間で、車椅子に乗車したまま利用できるジャンボハイヤー(リフト乗降)・小型車(スロープ乗降)を運行した。

平成27年12月開業の仙台市地下鉄東西線国際センター駅2階に設置したトラベルデスクでの事前予約制とし、シャトルバスが運行する区間については無料、それ以外の区間については有料とした。期間中23件の利用があった。



福祉車両

### 1-2-4 DATE BIKE(ダテバイク)の提供

会議のグリーン化の一環として、本体会議参加者に本体会議場とパブリック・フォーラム会場などを気軽に移動してもらえよう、レンタサイクル

(DATE BIKE/ダテバイク)を3月14日～18日に無料で提供した。期間中は既存ポート(駐輪場)32カ所に加え、臨時ポートを6カ所増設し、利用者の便宜を図った。

ダテバイクに乗車するためのICカードは、国際センター駅隣りに設置された臨時ポートに受付所を設け、参加者IDと氏名を提示した会議参加者に配布した。臨時ポートでは英語表記によるダテバイクの使い方や自転車交通ルールのチラシを配布するとともに、語学ボランティアによるルール遵守の呼び掛けも行った。5日間のICカード配布人数は510人、延べ利用回数は1,607回であった。



ダテバイク国際センター駅臨時ポート



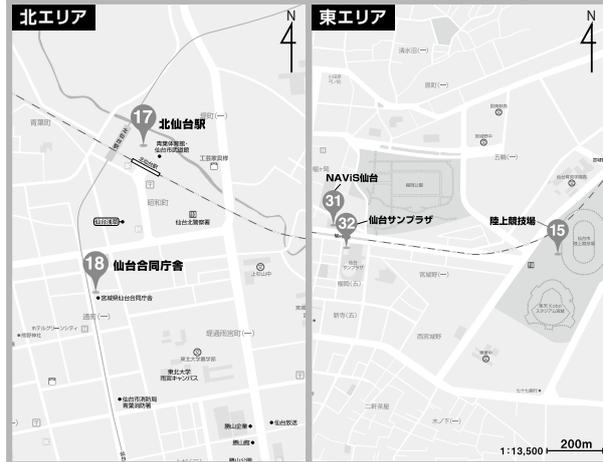
ダテバイクを利用する会議参加者

### 1-2-5 仙台空港アクセス鉄道の増結運転

会議期間中、空港利用者の増加が予想されたことから、仙台空港アクセス線(仙台空港駅-JR仙台駅)では3月13日～18日の期間、毎日上り6本・下り6本の計12本で、通常の2両編成を4両に増結した運転が行われた。



## ■DATEバイク ポートマップ



- A 国際センター駅臨時ポート
- B 仙台市博物館臨時ポート
- C 東北大学川内キャンパス臨時ポート
- D せんだいメディアテーク臨時ポート
- E 定禅寺通(エル・パーク仙台)臨時ポート
- F 市民活動サポートセンター前臨時ポート

## ■ICカード配布人数

(人)

3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	合計
124	112	122	87	65	510

## ■延べ利用回数

(回)

3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	合計
178	301	329	460	339	1,607

B  
実行委員会の取り組み

1-2-6 交通規制

3月14日～18日、本体会議場の仙台国際センター周辺において宮城県警による交通規制が実施された。実行委員会では規制に関する立て看板の設置や実行委員会ホームページなどでの告知を行い、市民や来街者への周知に努めた。



交通規制に関する立て看板

■交通規制の告知内容(実行委員会ホームページより)

第3回国連防災世界会議に伴う交通規制へのご理解とご協力をお願い

◆ 交通規制のお知らせ

下記①～③のとおり、交通規制を実施いたします(一部、交通規制の変更)。地域住民の皆様、道路を利用する皆様にはご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

◆ 公共交通機関ご利用のお願い

会議開催期間中(3月14日～18日)は、JR仙台駅や仙台国際センター付近を含む仙台市内は、会議参加者が利用する大型観光バス、タクシー、ハイヤーが通行し、非常に混雑することが予想されます。公共交通機関をご利用くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 1-3 警備・危機管理

### 1-3-1 本体会議場の警備

本体会議場の警備は、主催者である国連と開催国である日本政府、宮城県警、仙台市が合同で警備計画を策定し、実施された。本体会議場となる仙台国際センターおよび国際センター駅が、期間中国連管理下となるのに先立ち、日本政府と仙台市により建物や周辺の爆発物の探査が実施され、外部からの侵入を阻止するため、会場外周にフェンスが設置された。

3月9日から国際センター駅が国連管理下となり、駅舎内でIDカードの発行が開始された。3月12日からは、仙台国際センターとその敷地周辺が国連管理下となり、国連による自主警備が開始された。以後、国際センター駅北側の交流広場に設置されたテントおよび仙台国際センター会議棟の出入口では、X線と金属探知機による手荷物検査を実施。加えて、国際センター駅と仙台国際センター会

議棟にはセキュリティゲートが設置され、IDカードによる出入管理が行われるなど、会議関係者以外の出入は厳しく制限された。

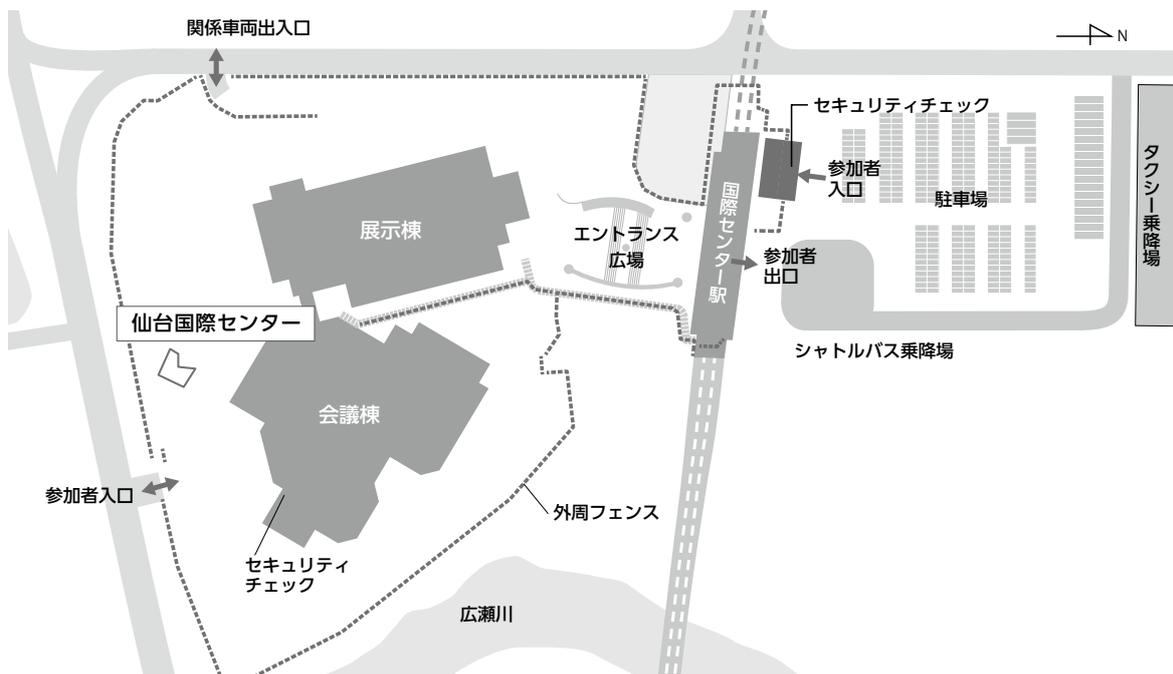
3月14日に仙台国際センター展示棟で開催された開会式への出席は、通常のIDカードに加えて、開会式専用のセカンダリーバッジの携行が義務付けられ、展示棟前ではペットボトル、長傘などの持ち込みを制限する手荷物の二次検査が実施された。

仙台国際センター会議棟内には国連、宮城県警、日本政府、仙台市の合同警備本部が設置され、会議開催期間中の事件・事故発生に備え、情報の集約と連携調整が行われた。

#### ■警備の主体と役割分担

機関名	役割
国連	本体会議場の警備
警察庁、宮城県警	要人警護、会場周辺の警戒、交通規制等
日本政府、仙台市	本体会議場での国連警備の補助（警備会社へ委託）

#### ■警備エリア





国際センター駅北側のセキュリティチェックに並ぶ会議参加者



仙台国際センター会議棟でのセキュリティチェック

### 1-3-2 仙台市の危機管理体制

3月13日～18日、仙台国際センター会議棟内に仙台市危機管理室が現地連絡所を設置し、職員を派遣。また、本庁舎内に情報連絡室を設置し、事件・事故の発生に備え、迅速に情報を伝達する体制を整えた。

また、食中毒、感染症については、昼夜にわたる通報体制を整備して備えた。



仙台市役所本庁舎内の情報連絡室

## 1-4 消防・救急・医療

### 1-4-1 仙台市消防局による特別警戒

会議開催に先立ち仙台市消防局が、関係施設の警防調査(施設状況や周辺地理状況等の確認)や防火管理状況の立入検査を実施し、会議参加者の安全な受入体制を整備した。

2月24日には、青葉消防署が仙台国際センター展示棟で「C(化学)災害・集団災害救急訓練」を実施。市内各消防署、青葉消防団、宮城県警、仙台市立病院、国立病院機構仙台医療センター、東北大学病院、東北福祉大学生ボランティアなど300人以上が参加した。また、この訓練に合わせ、仙台市危機管理室では仙台市役所各局および区役所、宮城県、自衛隊との情報連絡訓練も実施した。

3月13日～18日には、消防特別警戒本部を消防局内に設置するとともに、特殊災害対応部隊として、泉消防署八乙女分署の特別機動救助隊を、仙台国際センターを管轄する青葉消防署に移動配置させた。また、仙台国際センター敷地内に現地警戒本部を設置し、指揮隊車、無線情報車、消防ポンプ車、支援車各1台と救急車3台を増強配備して、災害などの不測の事態に備えた。



C(化学)災害・集団災害救急訓練



仙台国際センター敷地内で現地警戒に当たる仙台市消防局

### 1-4-2 救護室の設置

3月13日～18日、仙台国際センター展示棟内に救護室を設置し、仙台市立病院、仙台オープン病院から派遣された医師1名、看護師2名が会議時間帯に常駐した。同時に、会議時間帯に合わせ、仙台市消防局で、救急車を救護室横に2台、青葉消防署片平出張所に1台を待機させ、搬送病院として指定した東北大学病院、仙台市立病院、仙台オープン病院のいずれかに迅速に搬送する体制を整えた。さらに、救護室の対応能力を超える不測の事態が発生した際に備え、3月14日～18日の5日間、仙台市博物館にDMAT(災害時派遣医療チーム)が待機した。

#### ■救護室の利用実績

(人)

	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	合計
利用者合計	3	7	11	10	11	4	46
救急搬送合計	1	0	0	0	1	0	2



救護室スタッフ

## 1-5 語学ボランティア

### 公募と研修

平成26年4月17日、海外からの会議参加者の案内・誘導などに当たる「第3回国連防災世界会議語学ボランティア」の公募を、特設サイトを開設して開始。5月30日の締め切りまでに546名の応募があった。

全7回の研修会では、会議概要、接遇マナー、市の基本情報などの講義と、被災地・観光地の視察を実施した。

会議開催直前の3月9日には、仙台市民会館で結団式を開催した。奥山仙台市長が、国連防災世界会議が東日本大震災の被災地で開かれる意義について述べた後、「会議でボランティア活動をやった良かった、心の交流ができたという思いに満たされる、素晴らしい場となることを願っている」と挨拶。また、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)の松岡由季駐日事務所代表は、「この会議の大きな目的は、世界の防災・減災の能力を向上させるための指針をつくること。会議をボランティアとしてサポートすることで、皆さんはその大きな目標に貢献するという重要な役割を担っている。ぜひ、その自負を持ってこの仕事に携わってほしい」と激励した。



結団式でのボランティア代表挨拶

### 会議期間中の活動

語学ボランティアは、本体会議場をはじめ、歓迎レセプション会場、関連事業会場、各種ツアー、JR仙台駅など33カ所で会議補助、案内誘導などの業務に従事し、3月13日～19日の7日間で320人(延べ1,036人)が活動した。活動者の年齢は18歳～79歳までと幅広く、約8割が仙台市内在住であった。複数日にわたって活動する語学ボランティアには、毎日配置換えが行われ、多様な業務を経験した。



本体会議場でのコングレスバッグ配布

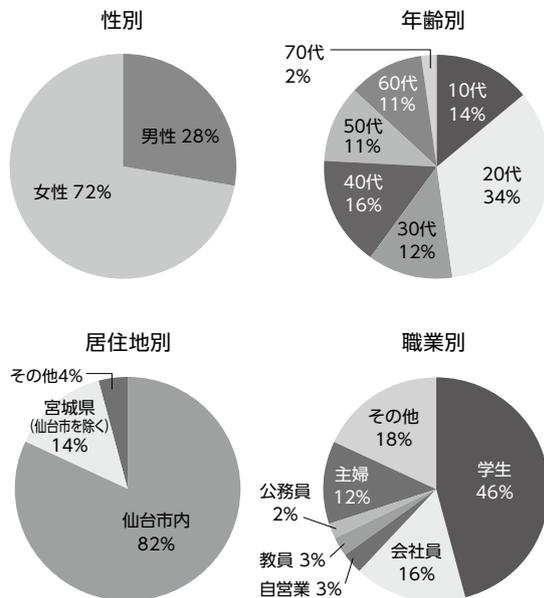
### ■研修会の実施経過

開催回	開催日	内容	参加数
第1回	平成26年 7月25日・26日	・挨拶 ・研修オリエンテーション ・国連防災世界会議概要 ・国際会議概要 ・プロトコール ・東北被災4県 ・仙台市概要 ・仙台市被災状況 ・復興計画	342人
第2回	9月28日・29日	・接遇 ・ボランティアの役割と活動の基本 ・接遇の基本マナー ・言葉とコミュニケーション	326人
第3回	10月24日・25日	・被災地視察(荒浜、関上(語り部による))	316人
第4回	11月28日・29日	・観光視察(瑞鳳殿、仙台城跡、大崎八幡宮)	310人
第5回	平成27年 1月30日・31日	・国際会議開催地としての仙台市基本情報・特徴	314人
第6回	2月14日・15日	・ボランティアの活動内容について	312人
第7回	3月9日	・結団式、係別オリエンテーション	294人



JR仙台駅での案内

### ■語学ボランティアの属性



### ■活動実績

活動日	活動人数 (人)
3月13日	77
3月14日	197
3月15日	232
3月16日	194
3月17日	198
3月18日	132
3月19日	6
合計	1,036

### ■活動内容別実績

活動内容	活動場所	延べ人数 (人)
本体会議 (会議補助、案内誘導、コンgresパック配布、ゴミ分別補助、警備員補助、記念撮影支援)	仙台国際センター、仙台国際センター駅	347
実行委員会主催 歓迎レセプション	ホテルメトロポリタン仙台	30
関連事業 (総合フォーラム、シンポジウム等での案内誘導、展示補助)	東北大学川内萩ホール、せんだいメディアテーク他	425
スタディツアー、配偶者プログラム、短時間観光バス「仙台号」(バス同乗の上、案内)	宮城県内各地	56
参加者送迎	JR 仙台駅、仙台空港	97
東北大学生協レジ補助	東北大学生協	61
その他	ダテバイク (各ポート)、仙台なびっく、東北ろっけんパーク等	20
合計		1,036

### 活動を終えて

会議終了後に実施したアンケートでは、約7割が今回の活動に対し「大変満足」または「概ね満足」と回答した。また、会議参加者からも、語学ボランティアの対応が良かったとの声が多く寄せられた。今後も国際会議の場での活動を希望するボランティアは、「仙台コンベンション学生サポーター」や「ボランティア・バンク」に登録し、引き続き国際会議に携わっていく予定。

## 1-6 各種サービス

本体会議場内では、会議参加者の利便性を考慮したさまざまなサービスが提供された。

### 1-6-1 銀行サービス

外貨両替専用銀行と、クレジットカードで現金を引き出せる銀行ATMを、国際センター駅2階に設置した。

また、仙台国際センター展示棟北側の広場には、災害時にも活用される移動型ATMを、展示を兼ねて設置した。



外貨両替専用銀行



屋外の移動型ATM

### 1-6-2 郵便サービス

国内・国際郵便および荷物の引き受けや、記念切手および仙台・東北のはがきなどの販売を行う郵便局を、国際センター駅2階に設置した。



国際センター駅の郵便局

### 1-6-3 コンビニエンスストア

飲料、軽食類のほか、東北の菓子や防災関係の書籍などを販売するコンビニエンスストアを、国際センター駅2階に設置した。また、コンビニエンスストアの移動販売車を、仙台国際センター展示棟北側の広場に設置した。



国際センター駅のコンビニエンスストア



屋外のコンビニエンスストア移動販売車

#### 1-6-4 昼食会場

会議開催中は、仙台国際センター会議棟のレストラン「リーフ」の営業に加え、国際センター会議棟2階の「桜」および仙台国際センター展示棟北側の広場に昼食会場を設置した。多様なニーズに対応するため、和食・洋食・中華・ベジタリアン専用、ハラル専用の日替わり弁当が販売されたほか、復興感謝米を使用した仙台おもてなし弁当や、カレー、サンドイッチなどの豊富なメニューを提供した。

また、食後のゴミについては、簡単に正しく分別廃棄できるよう、エコステーションを設置し、語学ボランティアや会場スタッフが分別の補助を行った。



昼食会場の様子



仙台おもてなし弁当



エコステーション

#### 1-6-5 無料Wi-Fi

今回の会議のコンセプトであったペーパーレスのグリーン会議に貢献するため、会議参加者が無料で接続できるWi-Fiを整備した。さらに大規模災害発生時、携帯電話会社を問わず接続可能な世界初の災害用統一SSIDによる公衆無線LANの無料開放を試験的に実施した。参加者は会議資料や交通案内等の各種情報を、Wi-Fi経由で各自の端末から閲覧した。

#### 1-6-6 タブレットの無料貸出

タブレット端末 (iPad Air) 200台を用意し、Wi-Fi接続機器を持たない会議参加者に無償貸出を実施したほか、被災地を訪問するスタディツアーでは、震災当時の動画・写真を閲覧する端末として活用した。

#### 1-6-7 トラベルデスク

シャトルバスの案内および各種ツアーの参加受付を行うトラベルデスクを、国際センター駅2階に設置した。このトラベルデスクでは、タブレット端末の貸出受付も合わせて実施した。

#### 1-6-8 ペットボトル入り水道水の提供

仙台市水道局のペットボトル入り水道水「ごくり◇きらり せんだい」(5年間保存可能)2万本が、本体会議場で無料配布された。

会議に合わせて新しく制作された新ラベルには、仙台をより身近に感じていただけるよう、騎馬姿の伊達政宗公と仙台七夕の吹流しがデザインされ、英語の説明も記載された。



ごくり◇きらり せんだい

# 2

## パブリック・フォーラム

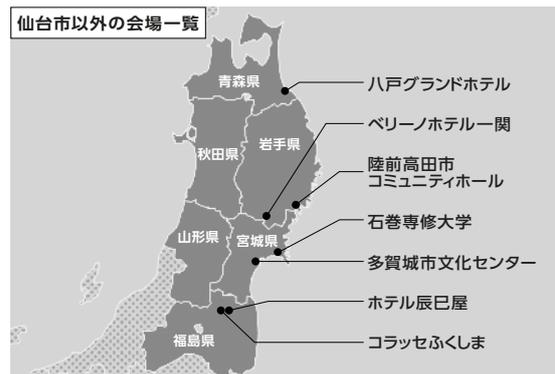
### 2-1 パブリック・フォーラム概要

会議の公式サイドイベントとして、3月14日～18日に、仙台市内および青森、岩手、宮城、福島県内の合計20カ所を会場に一般公開のパブリック・フォーラムが開催され、延べ15万人以上が参加した。

パブリック・フォーラムでは、国内外から広く公募された政府、国際機関、自治体、NPO・NGO、大学、企業、地域団体など、国内外の多様な主体によって防災や減災、復興に関する398のシンポジウ

ム・セミナー、200以上のブース展示、100以上のポスター展示、屋外展示などが行われた。東日本大震災の経験や教訓、復興や防災の取り組みを世界に発信し、共有するとともに、国内外の団体などとの情報交換や交流を通じて、世界の防災に関する最新の知見や課題に対する理解を深める機会となった。

■パブリック・フォーラム会場



■ パブリック・フォーラムの概要

形式	プログラム		概要	主催/運営	会場	参加者数	
会議形式プログラム	東日本大震災総合フォーラム		パブリック・フォーラムの中核事業として「東日本大震災の経験と教訓を世界へ」をテーマとし、日本政府や実行委員会等が主催し、計10セッションのシンポジウムを実施	日本政府、第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会等	東北大学 川内萩ホール	6,799人	
	テーマ館	市民協働と防災	「市民協働と防災」をテーマとしたシンポジウム、ワークショップ、展示等を実施 ※3月14日～17日	防災からまちづくりを考える実行委員会	仙台市市民活動サポートセンター ※一部、東京エレクトロンホール宮城	48,615人	
		女性と防災	「女性と防災」をテーマとしたシンポジウム、ワークショップ、展示等を実施	仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団	エル・パーク仙台		
	シンポジウム・セミナー		国内外の諸団体が防災・減災の取り組みや復興に向けた活動を発表	政府、国際機関、自治体、NPO・NGO、大学、企業、地域団体等	仙台市民会館、東京エレクトロンホール宮城等東北の複数会場		
展示形式プログラム	屋内	世界の防災展	ブース展示	国内外の諸団体による防災・復興の取り組みに関するブース展示を実施	国内外の諸団体等	33,364人	
			ポスター展示	国内外の諸団体による防災・復興の取り組みに関するポスター展示を実施	国内外の諸団体等		東京エレクトロンホール宮城
	屋内	東北防災・復興パビリオン		青森、岩手、宮城、福島の4県および宮城県内の全市町村と連携し、世界に向けて防災や復興の取り組みを発信する大型展示を実施	第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会	せんだいメディアテーク	10,427人
		防災産業展 in 仙台		日本の優れた防災技術を世界に向けて発信する大規模な産業展を実施 ※3月15日～17日	内閣府、宮城県、日刊工業新聞社	夢メッセみやぎ	5,827人
		せんだい防災のひろば		家族で楽しみながら防災・減災について学ぶことができる消防車両の展示・試乗、自衛隊・消防音楽隊等によるステージや防災関連企業等のブース展示等を実施 ※3月14日～15日	仙台市		24,000人
	屋外	国際交流のひろば		世界各国の料理が楽しめる屋台スタイルのワールドキッチンや国際協力に関する展示、世界各国から来仙した民間団体(NGO)と交流ができるスペースを設置	第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会	勾当台公園、仙台市役所本庁舎前庭	23,900人
		消防訓練・車両展示		消防による救助訓練や特別高度工作車等の特殊車両の展示を実施 ※3月14日～15日	仙台市(共催)総務省消防庁		3,000人
合計						155,932人	

B

実行委員会の取り組み

## 2-2 東日本大震災 総合フォーラム

パブリック・フォーラムの中核事業として、日本政府と実行委員会の主催により、3月14日～18日、東北大学川内萩ホールにて東日本大震災総合フォーラムを開催した。

「東日本大震災の経験と教訓を世界へ」をテーマに、東日本大震災の経験や教訓を生かしたより良い復興、新たな防災のあり方を展望するシンポジウムとして国内外から著名なスピーカーを招き

議論を深めた。

シンポジウムは、日本政府や実行委員会などが主催し、合計10セッションを実施。本体会議参加者以外に市民も加わり延べ 6,799 人が参加した。

会場では、「東北大学復興アクション～『東北復興・日本新生の先導』を目指して～」と題して、東北大学の復興・新生を先導する研究・教育・社会貢献活動を紹介する展示も併せて実施された。

### 〈東日本大震災総合フォーラム概要〉

セッション	日程	テーマ	主催	参加者数	
第1	3月14日	13:30～ 15:00	我が国の防災の展望:究極の防災対策を目指して ～兵庫から仙台、そして未来へ～	内閣府	1,100人
第2		15:30～ 17:30	地震、津波、土砂災害時等における消防団、 地域住民の役割	消防庁	900人
第3	3月15日	10:00～ 12:00	メディカルフォーラム in 仙台 ～東日本大震災時の医療活動の実践と今後の展望～	仙台市	500人
第4		13:30～ 15:30	東日本大震災からの復興の現状と取組 ～“新しい東北”の創造～	復興庁	600人
第5		16:30～ 18:30	激甚化する巨大災害にどう立ち向かうか ～命を守り、社会経済の壊滅的被害を回避するために～	国土交通省、 (公社)土木学会、水と 災害ハイレベル・パネル	600人
第6	3月16日	10:00～ 13:00	国土強靱化 ～私たちは次の世代に何を残すべきか～	内閣官房国土強靱化 推進室	432人
第7		15:00～ 18:00	持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開 ～より良い子どもたちの未来に向けて～	文部科学省、日本ユネス コ国内委員会、宮城教育 大学	1,100人
第8	3月17日	10:00～ 12:00	天災は忘れたころにやってくる ～BOSAIでつながる日本と世界・防災国際協力～	(独)国際協力機構	350人
第9		14:30～ 18:00	巨大災害発生時における災害廃棄物対策 ～事前の備えと官民連携による迅速な復旧～	仙台市災害廃棄物等処理 フォーラム実行委員会	717人
第10	3月18日	14:30～ 17:00	復興と防災を支える市民のちから	仙台市、 第3回国連防災世界会議 仙台開催実行委員会、 UNISDR	500人
					6,799人

## 第1セッション

- 日時：3月14日 13:30～15:00
- テーマ：我が国の防災の展望:究極の防災対策を目指して～兵庫から仙台、そして未来へ～
- 主催：内閣府

### プログラム

- オープニングセッション
  - 開会挨拶
    - ・松本 洋平(内閣府大臣政務官)
    - ・三村 申吾(青森県知事)
    - ・達増 拓也(岩手県知事)
    - ・若生 正博(宮城県副知事)
    - ・内堀 雅雄(福島県知事)
- パネルディスカッション
  - ・大西 隆(豊橋技術科学大学学長 東京大学名誉教授 日本学会会議会長)
  - ・柄澤 康喜(日本経済団体連合会 防災に関する委員会 共同委員長 三井住友海上火災保険株式会社取締役社長)
  - ・杉本 明文(兵庫県防災監)
  - ・田村 圭子(新潟大学危機管理本部危機管理室 教授)
  - ・濱田 政則(アジア防災センター センター長)

### セッション概要

日本では、これまでも阪神・淡路大震災などの数々の大規模災害による被害を受けて防災対策の強化・改善を進めるとともに、東日本大震災を契機にさらなる防災対策の強化などを図ってきた。

本フォーラムでは、松本内閣府大臣政務官による開会挨拶の後、東日本大震災からの復興状況や、震災をきっかけとした災害対策の取り組みなどについて、東北4県の知事・副知事から発表が行われた。これらの経験と兵庫行動枠組(HFA)での取り組みを踏まえつつ、我が国が中心となり、ポスト兵庫行動枠組に向けてどのような取り組みを行っていくかについて、企業、地方自治体、専門家、国際機関の代表者によるパネルディスカッションを行い、本会議での議論について市民が理解を深めた。



開会挨拶を行う松本内閣府大臣政務官



パネルディスカッション

## 第2セッション

- 日 時 : 3月14日 15:30~17:30
- テーマ : 地震、津波、土砂災害時における  
消防団、地域住民の役割
- 主 催 : 消防庁

### プログラム

- 主催者挨拶 坂本 森男(消防庁長官)
- ビデオメッセージ 高市 早苗(総務大臣)
- 活動事例発表
  - ・佐々木 由貴(宮城県南三陸町役場)
  - ・長澤 初男(福島県南相馬市消防団 団長)
  - ・菊池 のどか(岩手県立大学 総合政策学部1年)
  - ・鎌倉 宏(長野県白馬村 堀之内区自主防災組織 会長)
  - ・太田 史彦(長野県白馬村 三日市場区自主防災組織 会長)
  - ・羽根 高明(東京都大島町消防本部 次長)
- 総括
  - ・室崎 益輝(神戸大学名誉教授)



開会挨拶を行う坂本消防庁長官

### セッション概要

近年、東日本大震災という未曾有の大災害をはじめ、地震、局地的な豪雨などによる災害が各地で頻発し、住民の生命、身体および財産の災害からの保護における地域防災力の重要性が増大している。平成25年12月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立したが、この法律は住民の積極的な参加の下に、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全の確保に資することを目的としている。

本フォーラムでは、仙台市青葉消防団の岡村まき子による司会進行の下、主催者である坂本消防庁長官から挨拶があり、続いて、高市大臣によるビデオメッセージが上映された。その後、東日本大震災や伊豆大島の土砂災害、長野県北部地震時において実際に活動した5組6名の消防団員や地域住民から、東日本大震災をはじめ、地震、津波、土砂災害時において消防団や地域住民などが行った対応の事例について発表があり、会場との意見交換が行われた。最後に、これらの活動事例発表を踏まえて、室崎神戸大学名誉教授による総括が行われた。



事例発表を行う岩手県立大学の菊池のどかさん

### 第3セッション

- 日時：3月15日 10:00～12:00
- テーマ：メディカルフォーラム in 仙台  
～東日本大震災時の医療活動の実践と  
今後の展望～
- 主催：仙台市

#### プログラム

- パネルディスカッション  
「東日本大震災時の医療活動の実践と今後の展望」
  - コーディネータ  
・辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科教授)
  - パネリスト  
・永井 幸夫(仙台市医師会会長)  
・長田 純一(仙台歯科医師会会長)  
・北村 哲治(仙台市薬剤師会会長)
  - コメントータ  
・北波 孝(厚生労働省地域医療計画課長)
- 基調講演  
「東北大学病院の震災時における医療活動と  
東北大学の今後の役割」  
・里見 進(東北大学総長)

#### セッション概要

被災地域の再生を支援する東北大学の役割と今後の展望などについて発信するとともに、東日本大震災において医療関係者が取り組んだ医療救護活動を振り返り、そこから得た知見・教訓等を基に、将来起こりうる巨大地震・津波等の自然災害発生時とその後の医療活動のあり方について世界に発信した。

パネルディスカッションでは、地域医療の主要な担い手である医師会、歯科医師会、薬剤師会が、東日本大震災において被災者のためにどのような医療活動を行ってきたのか、震災直後から避難所での避難生活、その後の応急仮設住宅での生活に至るまで、各団体が被災者のその時々状況に応じてどのような医療活動を実践していったのか報告を行った。また、被災者の健康状態などに関する東北大学の調査報告と厚生労働省のコメントも交えて、将来起こりうる巨大地震・津波などの自然災害発生時とその後の医療活動の在り方について展望した。

基調講演では、里見東北大学総長より、震災時の東北大学病院長として、被災地にある最前線の病院がその機能を発揮し続けられるよう医師の派遣や患者の受け入れなどの陣頭指揮をいかに執ったか、また、現

在、東北大学が東北復興・日本新生を先導することを目指して推進している「東北大学復興アクションプラン」について、それぞれ説明をいただいた。



パネルディスカッション



基調講演を行う里見東北大学総長

## 第4セッション

- 日 時：3月15日 13:30～15:30
- テーマ：東日本大震災からの復興の現状と取組  
～“新しい東北”の創造～
- 主 催：復興庁

復興庁のウェブサイトでは本フォーラムを掲載している。  
<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-15/20150130142105.html>

### プログラム

- 基調講演 竹下 亘(復興大臣)
- 優良事例①  
感謝を包む手仕事で、幸せを世界に繋ぐ  
引地 恵((一社)WATALIS代表理事)
- 優良事例②  
企業の新たな存在意義とは  
藤沢 烈((一社)RCF復興支援チーム代表理事)
- 優良事例③  
生きがいと役割を取り戻すために  
清原 桂子(神戸学院大学現代社会学部教授)
- 優良事例④  
川内村の帰還に向けた取組と課題  
遠藤 雄幸(福島県川内村長)
- 優良事例⑤  
子どもたちの思いを、教育復興に/世代を超えたふたばの未来へ  
竹内 敏英  
(双葉郡教育長会会長(双葉郡子供未来会議))  
木村 元哉  
(福島大学行政政策学類1年生(双葉郡子供未来会議))
- 優良事例⑥  
気仙沼ニッティングの挑戦  
御手洗 瑞子((株)気仙沼ニッティング代表取締役)
- スピーチ「新しい東北の創造」から「新しい日本の創造」へ  
青柳 光昌((公財)日本財団ソーシャルイノベーション  
推進チーム チームリーダー)
- 優良事例⑦  
東松島市の復興まちづくり  
阿部 秀保(宮城県東松島市長)
- 若者メッセージ  
“東北の”中高生の役割とは?  
佐藤 陸(福島県いわき市出身)



基調講演を行う竹下復興大臣



優良事例を紹介する竹内双葉郡教育長会会長と  
福島大学の木村元哉さん

### セッション概要

竹下復興大臣より、東日本大震災の特徴と、復興における民間との連携に焦点を当てた基調講演が行われた。続いて、被災地の現場で活躍する官民の代表による講演として、復興まちづくり、なりわい、心のケア、福島の復興、民間セクターとの連携など、各テーマごとの先進的な取組事例の紹介を行った。併せて、震災後、積極的に国際的な発信を行っている被災地の学生が、新しい東北の創造に向けたスピーチを行った。

## 第5セッション

- 日時：3月15日 16:30～18:30
- テーマ：激甚化する巨大災害にどう立ち向かうか  
～命を守り、社会経済の壊滅的被害を回避するために～
- 主催：国土交通省、公益社団法人土木学会、  
水と災害ハイレベル・パネル  
(HELP:High-level Experts and  
Leaders Panel on Water and  
Disaster)

### プログラム

- 主催者代表挨拶  
北川 イッセイ(国土交通副大臣)
- 基調講演  
ハン・スンス(国際連合防災と水に関する事務総長特使、  
元大韓民国国務総理(首相))  
河田 恵昭(関西大学教授)
- パネルディスカッション  
コーディネーター:  
磯部 雅彦(高知工科大学副学長、土木学会会長)  
パネリスト:  
徳山 日出男(国土交通省技監)  
ロヘリオ・シンソン(フィリピン公共事業道路大臣)  
ファット・オクタイ(トルコ首相府災害緊急事態対策庁長官)  
グース・ウィリクス(オランダインフラ環境省戦略アドバイ  
ザー)  
ジェームズ・ダルトン(アメリカ陸軍工兵隊技術監)

### セッション概要

北川副大臣より主催者代表挨拶として、過去の災害に学び、次の災害に活かすことを重ねることの重要性が述べられたのち、ハン国連事務総長特使による基調講演「防災の主流化」では、東日本大震災の被災地視察も踏まえ、復旧・復興における強力なリーダーシップの重要性、気候変動・水資源管理・防災に一体的に取り組む姿勢や、事前の防災投資の必要性が述べられた。

河田教授による基調講演「国難、巨大災害を迎え撃つ」では、複合災害など最悪の被災シナリオを想定した防災・減災対策の必要性、および災害先行型から対策先行型への脱皮を図っている我が国の取り組みが述べられた。

パネルディスカッションは、磯部会長のコーディネートのもと、パネリストとして過去に大規模災害を経験した国々から閣僚級や政府高官が参加し、各国が巨大災害にどのように備えているのか、発表および意見交換

が行われた。

まとめとして、巨大災害に立ち向かうためには、(1) 備えが不可欠であり、そのために最大クラスのリスク評価と共有が重要、(2) 各国の実情に合わせた施設整備目標をしっかりと達成し、それを上回る災害にはソフト対策を組み合わせた現実的な対応が重要、(3) 災害の経験を元にした、より良い復旧・復興が重要といった結論が得られた。



主催者挨拶を行う北川国土交通副大臣



パネルディスカッション

## 第6セッション

- 日 時：3月16日 10:00～13:00
- テーマ：国土強靱化～私たちは次の世代に何を残すべきか～
- 主 催：内閣官房国土強靱化推進室

## プログラム

## 【第1部 開会挨拶・来賓挨拶・基調講演】

- 開会挨拶 山谷 えり子(代読)(国土強靱化担当大臣)
- 来賓挨拶 二階 俊博  
(自由民主党総務会長・国土強靱化総合調査会長)
- 基調講演 藤井 聡  
(ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会座長)

## 【第2部 パネルディスカッション】

「防災・減災思想の主流化とよりよい復興のための文化の伝承」

- ◎コーディネーター  
藤井 聡(ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会座長)
- ◎パネリスト  
熊谷 幸三(徳島県副知事)  
望月 正彦(三陸鉄道㈱代表取締役社長)  
国崎 信江(危機管理教育研究所代表)  
山本 志織(気象予報士)

## 【第3部 パネルディスカッション】

「アセアン及び東アジア地域の国土強靱化に向けて」

- ◎オープニング  
二階 俊博(自由民主党総務会長・国土強靱化総合調査会長)  
西村 英俊(東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)事務総長)
- ◎モデレーター  
澤田 康幸(東京大学大学院経済学研究科教授)
- ◎パネリスト  
ジャック・ラディッシュ(経済協力開発機構(OECD)ハイレベルリスクフォーラムプロジェクトマネージャー)  
柴崎 亮介(東京大学空間情報科学研究センター教授)  
サイド・ファイサル(アセアン防災人道支援調整センター(AHAセンター)長)
- ◎クロージング  
ラリー・マラムス(アセアン事務局分野横断協力局長)

る諸外国の理解を深めることを目指した。

第1部では、内閣官房参与ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会の藤井座長による基調講演が行われた。第2部のパネルディスカッションでは、藤井座長のコーディネートの下、4名のパネリストが登壇し、防災・減災への取り組みなどを発表した。第3部のパネルディスカッションでは、東京大学大学院経済学研究科の澤田教授をモデレーターに迎え、3名のパネリストが登壇。強靱性を高めるためには実行性の高いリスク管理メカニズムを確立し、国境を超えた宇宙からのデータ活用が有効であることが示唆された。



第3部開会挨拶を行う二階自由民主党国土強靱化総合調査会長



パネルディスカッション(写真提供:内閣官房)

## セッション概要

本フォーラムでは、発生の可能性が指摘されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震、巨大台風などの自然災害による我が国の人命・財産・社会的機能の壊滅的な被害から免れるため、自助・共助・公助それぞれの施策の担い手となるあらゆる者に国土強靱化が正しく理解されるとともに、我が国の国土強靱化に対す

## 第7セッション

- 日 時：3月16日 15:00～18:00
- テーマ：持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開～より良い子どもたちの未来に向けて～
- 主 催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学

### プログラム

- 開会挨拶 山脇 良雄(文部科学省国際統括官)
- 趣旨説明 見上 一幸(宮城教育大学長)

#### 【東日本大震災被災地における実践事例発表】

- 大学による防災・復興教育プロジェクト
  - <東北大学>
    - 「東北大学減災『結』プロジェクト」
    - 保田 真理(災害科学国際研究所助手)
    - 「市民協働による仙台107万人の防災人づくり」
    - 佐藤 健(災害科学国際研究所教授)
  - <宮城教育大学>
    - 「震災を伝える、宮教大生の活動とその思い」
    - 渡辺 涼子(初等教育教員養成課程言語・社会系英語コミュニケーションコース 3年)
    - 八木沼 賢悟(初等教育教員養成課程芸術・体育系音楽コース 3年)
- 宮城県多賀城高等学校 災害科学科開設に向けた歩み(ユネスコスクール加盟を目指して)
  - 小泉 博校長、生徒2名
- 気仙沼市階上地区コミュニティ防災の10年(ユネスコスクール活動を通じたESDと防災・復興)
  - 及川 幸彦(日本ユネスコ国内委員会委員 宮城教育大学国際理解教育研究センター 協力研究員)
  - 吉田 智美(気仙沼市立階上中学校教諭)、生徒2名
  - 菊田 篤(気仙沼市立階上中学校PTA元会長)

#### 【パネルディスカッション】

- ◎コーディネーター
  - ショウ・ラジブ(京都大学大学院地球環境学学教授)
- ◎登壇者
  - アレクサンダー・ライヒト(国連教育科学文化機関本部ESD課長)
  - アモーレ・デトレス(キャピトル大学(フィリピン)副学長)
  - 今村 文彦(東北大学災害科学国際研究所所長・国連防災世界会議防災教育日本連絡会会長)
  - 菅原 昭彦(気仙沼商工会議所会頭・仙台広域圏ESD・RCE 運営委員)
  - 武田 真一(河北新報社論説委員会副委員長)
- ◎コメンテーター
  - 角地 スヴェンドリニ(インタープレスサービス特派員・日本外国特派員協会理事)

## セッション概要

多くの中高生を含む1,000人を超える市民や専門家が参加し、防災・減災における持続可能な開発のための教育(ESD)が果たす役割について理解を深めた。防災・減災はESDの中心的なテーマの一つであり、特に東日本大震災以降、防災に対するESDの役割が注目されている。平成26年11月には、愛知県で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」において「あいち・なごや宣言」が採択され、今後、ESDのコンセプトをいかに防災・減災に取り入れるかを考える必要性がさらに高まっている。本セッションでは、ESDの効果的な展開を図るため、被災地での実践事例の発表を行うとともに、国連、国内や海外の研究機関、メディアの関係者などが参加したパネルディスカッションを通して、ESDによる防災教育への貢献について議論した。



多賀城高校生徒による実践事例発表



パネルディスカッション

B

実行委員会の取り組み

## 第8セッション

- 日 時：3月17日 10:00～12:00
- テーマ：天災は忘れたころにやってくる  
～BOSAIでつながる日本と  
世界・防災国際協力～
- 主 催：独立行政法人国際協力機構（JICA）

## プログラム

- 開会挨拶 伊藤 敬幹(仙台市副市長)
- 基調講演 「JICAによる防災協力とその戦略」  
柳沢 香枝(独立行政法人国際協力機構理事)
- 基調講演 「スリランカにおける災害管理体制と防災事前投資の実践」  
L. B. R. マーク(スリランカ 災害管理センター長官)
- パネルディスカッション  
「よりよい防災・減災へ向けて～日本の知見を世界へ～」  
◎ファシリテーター：  
西川 智(独立行政法人水資源機構理事)
- ◎パネリスト(五十音順)：  
五百旗頭 真(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)  
小池 俊雄(東京大学大学院工学系研究科教授)  
齋藤 富雄(公益財団法人兵庫県国際交流協会理事長)  
高橋 宗也(東松島市復興政策部復興政策課課長)  
西川 智(独立行政法人水資源機構理事)  
不破 雅美(独立行政法人国際協力機構地球環境部長)  
村井 雅清(特定非営利活動法人CODE 海外災害援助市民センター理事)
- 閉会挨拶 五百旗頭 真(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

## セッション概要

我が国の防災経験および国際防災協力を振り返りつつ、より良い国際防災協力について議論することを目的に開催された。

柳沢JICA理事の基調講演では、開発と防災は表裏一体の関係であることから、JICAは災害に対する脆弱性の根本的な原因でもある環境、貧困、紛争などの課題解決にも取り組み、安全な世界の構築に貢献していくことが述べられた。スリランカ災害管理センターのマーク長官による基調講演では、2004年のインド洋津波被害の後、日本の支援、特に防災分野の協力のおかげでスリランカの防災能力が向上できた点を強調し、JICAの協力の下、災害管理法の制定や災害管理センターの設置、防災教育や災害後のトラウマカウンセリングなどのソフト面の防災対策の充実を図っている点が説明された。

パネルディスカッションでは、防災に関連する国内行政、自治体、大学、NGO関係者が登壇し、阪神淡路

大震災および東日本大震災に関わる国内での取り組み、その経験を生かした国際防災協力の事例が紹介され、国際防災協力では相手国への押し付けにならないよう協議をするプロセスそのものが重要である点について意見の一致を見た。



基調講演を行うマーク スリランカ災害管理センター長官



パネルディスカッション

## 第9セッション

- 日時：3月17日 14:30～18:00
- テーマ：巨大災害発生時における  
災害廃棄物対策～事前の備えと  
官民連携による迅速な復旧～
- 主催：仙台市災害廃棄物等処理フォーラム  
実行委員会

### プログラム

- 序 事例発表
  - 「東日本大震災における災害廃棄物の処理について」
  - がれき等の撤去
    - 深松 努((一社)仙台建設業協会副会長)
  - 損壊家屋等の解体撤去
    - 佐藤 正之(宮城県解体工事業協同組合理事長)
  - がれき等のリサイクル・処理
    - 鈴木 昇(宮城県産業廃棄物協会仙台支部支部長)
- 第1部 基調講演
  - 「巨大災害発生時における災害廃棄物対策の取り組みについて」
  - 小里 泰弘(環境副大臣)
- 第2部 パネルディスカッション
  - 「災害廃棄物対策に関わる事前の備えと  
官民連携による迅速な復旧」
  - コーディネーター
    - ・吉岡 敏明(東北大学大学院環境科学研究科教授)
  - パネリスト
    - ・小里 泰弘(環境副大臣)
    - ・ムラリー・スマルクディ  
(国連環境計画(UNEP)シニアプログラムオフィサー)
    - ・オロフ・リンデン(世界海事大学(WMU)教授)
    - ・深松 努((一社)仙台建設業協会副会長)
    - ・伊藤 敬幹(仙台市副市長)

### セッション概要

将来の巨大災害における災害廃棄物対策に向けて、東日本大震災における仙台市の経験・教訓などを世界へ発信するとともに、官民連携による事前の備えと早期復旧活動などの具体的な取り組みについて、議論を深めた。

事例発表では、東日本大震災により仙台市内で発生した災害廃棄物を処理した地元の建設業・解体業・産業廃棄物業の各団体から、官民の緊密な連携による「仙台方式」により発災から3年以内で迅速に処理を完結したことについて報告した。

基調講演では、小里泰弘環境副大臣から、東日本大震災による災害廃棄物処理を促進するため、阪神・淡路大震災の知見・経験等を踏まえた法令上の措置、財政支援、処理体制の整備、処理指針を策定したことな

ど、国の取り組みについて報告があった。また、この度の教訓を踏まえ、今後発生が予測される大規模災害時に向けた円滑かつ迅速な災害廃棄物の処理を実現するための事前の備えの強化、適正処理を確保するための体制・仕組みづくりなど、現在の対応状況についても併せて報告があった。

パネルディスカッションでは、国連関係の有識者から海外の災害廃棄物対応なども報告され、発災後のよりよい迅速な復旧のための議論が深められた。世界各地の実情に応じて、民間事業者の活用も踏まえた復旧の仕組みを検討すること、危険物等のリスクを共有し回避するために、人材交流を図るとともに、災害廃棄物の分別・リサイクルにより、適正かつ迅速な処理を行うことなどについて議論がとりまとめられた。



基調講演を行う小里環境副大臣



パネルディスカッション

## 第10セッション

- 日 時：3月18日 14:30～17:00
- テーマ：復興と防災を支える市民のちから
- 主 催：仙台市、第3回国連防災世界会議  
仙台開催実行委員会、UNISDR

### プログラム

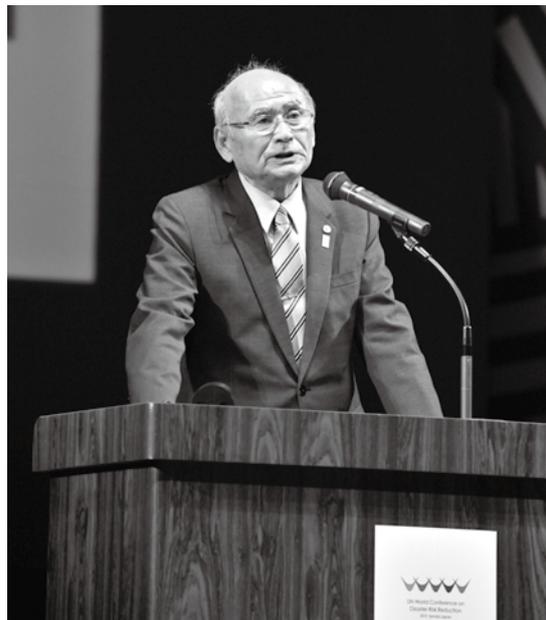
- 第1部 パブリック・フォーラムでの議論および報告
  - コーディネーター  
一力 雅彦(河北新報社代表取締役社長)
  - 報告者  
里見 進(東北大学総長)  
大山 健太郎(仙台経済同友会代表幹事)  
阿部 欣也(仙台市連合町内会長会長)
- 第2部 パネルディスカッション  
「復興と防災を支える市民のちから」
  - コーディネーター  
紅邑 晶子(防災からまちづくりを考える実行委員会委員長)
  - パネリスト  
石塚 直樹(みやぎ連携復興センター)  
合田 茂広(2015防災世界会議日本CSOネットワーク  
(JCC2015))  
宗片 恵美子  
(特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事)  
木須 八重子  
(公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長)

### セッション概要

総合フォーラムを締めくくるこのシンポジウムでは、多様な主体が参加したパブリック・フォーラムでの議論を市民と共有するとともに、東日本大震災の被災地である仙台で開催された意義や成果を振り返りながら、市民の力による今後のまちづくりや世界の防災文化の未来について考えた。

第1部では、産学民代表の3人が、各所属団体で開いたパブリック・フォーラムについて報告した。東日本大震災発生時の対応を振り返ったほか、復旧・復興の現状を説明。防災と復興に関わる多彩な取り組みを紹介し、企業、研究機関、市民の力をアピールした。

第2部では、パブリック・フォーラムの「テーマ館」として開設された「市民協働と防災」、「女性と防災」を運営した市民団体の代表が、交流や議論の成果を発表。地域防災力の向上を図るため市民の連携を進めることを確認し、地域や市民が主体となった防災・減災活動の持続を誓った。



報告を行う阿部仙台市連合町内会長会長



パネルディスカッション

## 2-3 テーマ館

東日本大震災では、市民、地域、企業などの市民・民間セクターが、災害対応や復旧・復興に大きな役割を果たした。なかでも、地域住民の協力による取り組みや市民活動団体による被災地支援、女性の視点による復興、防災への貢献など、市民・民間セクターの参画、連携、協力の重要性への認識が高まる機会となった。

パブリック・フォーラムでは、こうした視点から防災や復興についての議論を深め、成果や新たな知見を発信するため、「市民協働と防災」、「女性と防災」の2つの「テーマ館」を設置し、政府、自治体、国際NGO、地域団体、NPO、教育機関などの多様な主体によるシンポジウムやワークショップ、展示などを集中的に実施した。

### 2-3-1 「市民協働と防災」テーマ館

「市民協働と防災」テーマ館では、「防災からまちづくりを考える実行委員会」により、震災で顕在化したさまざまな課題に対する市民活動団体による取り組みや、国内外の団体と被災地との連携の事例など、復興や防災に関するさまざまな活動をシンポジウムやワークショップなどのイベントを通じて発信した。

また、各国の市民同士が学び合う特別企画として、「市民防災世界会議」を開催し、本体会議参加者からの会議の報告や、国内外の災害や復興事例について参加者で話し合った。

【期間】3月14日～17日

【会場】仙台市市民活動サポートセンター

※一部、東京エレクトロンホール宮城

【運営】防災からまちづくりを考える実行委員会

【来場者数】延べ3,340人(うち外国人122人)

#### 1.開催目的

さまざまなセクターを超えた多様な市民が、どのように連携して震災後のさまざまな課題に取組んでいるかを表現し、現在の復興や防災の取り組み、これから

のまちづくりについて市民と一緒に考え、その経験を国内外で分かち合う場を構築することを目的とした。

#### 2.実行委員会の体制

このテーマ館運営のために、「防災のまちづくりを考える」をテーマに平成26年5月に設立。(一社)泉青年会議所、(公社)仙台青年会議所、大学間連携災害ボランティアネットワーク、2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015)、(特活)せんだいみやぎNPOセンター、仙台市により構成された。

#### 3.企画コンセプト

小さなつながりが、大きなまちの輪になっていき、その経験が東北のみならず、国内外に通じるものであることを伝えることになると考え、「マチノワ～つながる想いを、マチのチカラに～」を企画コンセプトに設定した。



「市民協働と防災」テーマ館「マチノワ」ロゴマーク  
震災直後の朝焼けの記憶から、市民活動が朝焼けのグラデーションのように濃くなってきていることを表している。

#### 4.開催日ごとのテーマとプログラム内容

企画コンセプトを表現するために、4日間の開催期間中、「ひきだす・支える・つながる・ひろげる」というサブテーマに沿って、34団体によるプログラムを実施した。

なお、会議開催の3カ月前には中越地震を、1カ月前には阪神・淡路大震災を振り返り、復興と市民防災について考えるプレイベントを開催した。

3月14日(土) 【ひきだす】	従来、地域とつながりがなかった住民が地域活動を始めた事例など。
3月15日(日) 【支える】	独居者などへの見守り活動や地域の困りごとを協力して解決した事例など。
3月16日(月) 【つながる】	複数の団体や当事者が支援対象と協働して課題の解決にあたった事例など。
3月17日(火) 【ひろげる】	コミュニティエフエムなど地域密着のメディアで取り組みを可視化していく事例など。

### 5. ボランティア

準備期間を含め、延べ120名以上のボランティアから協力を得て、以下の活動を行った。

- ① 広報ボランティア: 会期前に街中の商店街を中心にチラシやポスターなどの掲示の交渉・設置を行った。
- ② 情報発信ボランティア: 主に河北新報社、情報ボランティア@仙台、仙台市市民活動サポートセンター市民ライター講座受講者で構成され、会期前から会期中を通して各団体取材し、その紹介記事を河北新報オンラインコミュニケーションおよびテーマ館のブログ「マチノワブログ」に掲載した。
- ③ 運営ボランティア: 会期期間中の各出展企画の案内、受付、誘導のほか、メッセージボードを担当した。
- ④ 通訳ボランティア: AIGジャパン・ホールディングス(株)、(特活)ジャパン・プラットフォーム、国連防災世界会議の語学ボランティアが、来館者への英語通訳や、情報発信ボランティアが作成した記事の翻訳を行った。

### 6. まとめ

地域防災のあり方や防災教育の取り組み、災害時のマイノリティの課題、国を越えた市民防災など多岐にわたって出展者と参加者との対話が生まれ、互いに学びや気づきが得られる場となった。

また、運営を担った実行委員会は、企業や大学、NPO、仙台市といった多様な団体から構成され、多数のボランティアの協力も得るなど、運営面でも市民協働の実践の場となった。



会場の様子



会場の様子



来場者から寄せられたメッセージ



会場となった仙台市市民活動サポートセンター

#### 【出展団体】

(特非)アフタースクールばるけ / (特非)エーキューブ / (特非)オペレーション・プレッシング・ジャパン / お!宮町地域情報編集局 / 上愛子学区連合町内会 / (特非)KIDS NOW JAPAN / 子どもが自然と遊ぶ楽校ネット / (一社)コミュニティ・4・チルドレン / (一社)ピースポート災害ボランティアセンター / (特非)ジャパン・プラットフォーム / 市民活動の運営を支援するプラットフォーム研究会 / 市民協働による地域防災推進実行委員会 / (特非)生活習慣改善センター / セブラルタイムス / 仙台市市民活動サポートセンター / 仙台市の防災教育を推進する実行委員会 / (公社)仙台青年会議所 / (特非)せんだいみやぎNPOセンターK-PROJECT / (特非)せんだい社の子ども劇場 / (特非)底上げ / 大学間連携災害ボランティアネットワーク / チーム東中田っ子 / 仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」 / (一社)東北圏地域づくりコンソーシアム / TOMODACHI RAW VOICE / (公財)日本YMCA同盟・(公財)仙台YMCA / 2015防災世界会議日本CSOネットワーク / 東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター / (一財)まきびズ / み・まもるプロジェクト実行委員会 / (一社)宮城県マンション管理士会 / みやぎ連携復興センター・いわて連携復興センター・ふくしま連携復興センター / 仙台市 仙台発震災復興地域かわら版「みらいん」 / レインボーアーカイブ東北

## 2-3-2 「女性と防災」テーマ館

「女性と防災」テーマ館では、シンポジウムや企画展などを通じて、東日本大震災で直面したジェンダーに起因する課題解決と、防災・復興と男女共同参画について議論を深めるとともに、被災地仙台・東北・日本・世界の女性たちの災害に強いまちづくりに向けた取り組みを発信した。

5日間の会期中には、多くのシンポジウムが満席となったほか、企画展示には約2,000人が訪れるなど、「女性と防災」というテーマへの関心の高さがうかがわれた。また、会場となったエル・パーク仙台を活動拠点とする市民団体のメンバーを中心とした179人のサポーターが運営を支えたほか、手仕事品の販売、リリーススピーチなどにも大勢の被災地の女性たちが参画し、訪れた来場者との間に数多くの交流が生まれた。

【期間】3月14日～18日

【会場】仙台市男女共同参画推進センター  
エル・パーク仙台

【運営】仙台市、  
(公財)せんだい男女共同参画財団

【来場者数】延べ6,647人



「女性と防災」テーマ館エントランス

## 1.シンポジウム

テーマ館主催シンポジウム「女性と防災～仙台発 東日本大震災4年後の視座」をはじめ、防災・減災に取り組む地域団体、NPO、自治体、国際機関などにより、男女共同参画や多様性配慮などをテーマとした14のシンポジウムが開催された。

※シンポジウム詳細は資料編を参照



テーマ館主催シンポジウム「トーク×トーク 女性たちのリーダーシップ」

## 2.「女性と防災」企画展

テーマ館主催シンポジウムや特別プログラムに関連した企画展示を開催した。企業や団体などによる復興支援活動の紹介、被災地の女性たちの声を伝えるパネル展など、防災における男女共同参画の視点を持った取り組みを映像やパネル、ミニレクチャーなどを通じて紹介した。

### 【出展団体等】

資生堂販売(株)東北支社/国連開発計画(UNDP)/KHB東日本放送/内閣府男女共同参画局/anant特別編集「女性のための防災BOOK」(協力: (株)マガジンハウス)/(特非)全国女性会館協議会/東日本大震災のための女性リーダーシップ基金事業/ノルウェー王国/減災と男女共同参画 研修推進センター(GDRR)/(特非)フォトボイス・プロジェクト/(公財)プラン・ジャパン/(特非)オックスファム・ジャパン/(公財)ジョイセフ/国際家族計画連盟(IPPF)/(特非)BONDプロジェクト/女子の暮らし研究所/積水ハウス(株)



「女性と防災」企画展会場

### 3. 仙台・宮城ブース

仙台・宮城で防災・復興に取り組む女性たちの活動紹介の場として、手仕事品マーケット、防災ワークショップなどのミニイベント、非常食の試食、リレースピーチなどの企画を日替わりで実施した。被災地の女性たちと触れ合いながら、被災地の今とこれからの防災を考える場として、連日多くの来場者が訪れた。

**【手仕事品マーケット】**

卸町5丁目仮設住宅町内会手作りくらぶ／福田町南公園仮設住宅編み会&つぎはぎすっぺ茶／りんくる／海の手山の手ネットワーク／ちよこつと＊はぎれの会／手づくり工房 さなえ／岡田西町公園仮設住宅編み会・縫い会／仙台友の会／仙台市若林区なな色会／仙台港背後地6号公園仮設住宅「チームはぎ」／はまなす蒲生・港の会／マートル／アゲイン巨理／園児エプロンプロジェクト&さくら団地仮設ゆめ工房／コミュニティサロン ジョイナス アイトピア

**【非常食等の試食・試飲】**

宮城県女性薬剤師会／サークルPAL／仙台市地域活動栄養士会子どもの食事研究グループ／株式会社鐘崎

**【ミニイベント・ワークショップ】**

みやぎ子どもの文化を支援する会／Wakka～地域夢つなぐ実行委員会／せんだい防災プロジェクトチーム

**【リレースピーチ】**

スピーカー 延べ66名

**【展示】**

「3.11東日本大震災 報道写真展」(河北新報社)／気仙沼市震災復興・企画部地域づくり推進課 男女共生推進室／つるし桃の「仙台かえりびなの会」



仙台・宮城ブースでの交流



みんなのための避難所ワークショップ

### 4. 青森・岩手・福島ブース

青森・岩手・福島の男女共同参画センターなどが、震災後の取り組みを展示や映像を通して発信した。各センターの職員やテーマ館サポーターが展示内容を説明しながら、被災地の現状を伝えた。

**【出展団体】**

あおり被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会／岩手県男女共同参画センター／もりおか女性センター／福島県男女共生センター 女と男の未来館／復興庁 男女共同参画班



青森・岩手・福島ブースの展示



**「女性と防災」テーマ館 ロゴマーク**

2つの楕円状のかたちは東日本大震災から生まれた女性たちの想いを「種」に見立てている。仲間とつながり、想いや活動が広がっていく様子をイメージするとともに、心の回復や復興は右肩上がりの直線ではなく、行きつ戻りつしながら、らせん状に進んでいくことも表現している。

## 2-4 シンポジウム・セミナー

3月14日～18日、仙台市内および青森、岩手、宮城、福島県内の合計15会場にて、シンポジウム・セミナーを開催。国内外の多様な主体が、防災に関する知見を集約し、発信することを通じて、広く関心を高めるとともに、東日本大震災から得られた教訓や復旧・復興に向けた取り組みを共有することを目的に実施した。

世界的な防災分野への関心の高まりや防災への多様な主体の参画の流れを受け、5日間で約400件ものシンポジウム・セミナーが開催されるとともに、そのおよそ3割を海外の団体が占めるなど、多様な主体の参画がなされた。

### 〈シンポジウム・セミナー会場一覧〉

所在地	会場名
仙台市内	東北大学川内北キャンパス
	仙台市民会館
	せんだいメディアテーク
	東京エレクトロンホール宮城
	TKPガーデンシティ仙台勾当台
	仙台市シルバーセンター
	仙台市情報・産業プラザ
	TKPガーデンシティ仙台
青森県	八戸グランドホテル(八戸市)
岩手県	ベリーノホテル一関(一関市)
	陸前高田市コミュニティホール(陸前高田市)
宮城県	石巻専修大学(石巻市)
	多賀城市文化センター(多賀城市)
福島県	コラッセふくしま(福島市)
	ホテル辰巳屋(福島市)



「Building Resilience in the Pacific」(東北大学川内北キャンパス)



「東北大学復興シンポジウム」(東京エレクトロンホール宮城)



「自然災害の脅威に備える、日立の防災・減災ソリューション」  
(仙台市情報・産業プラザ)



「多文化防災フォーラム」(TKPガーデンシティ仙台勾当台)

## 2-5 世界の防災展

3月14日～18日、仙台市内の各会場にて国内外の諸団体による200以上のブース展示が行われ、防災活動や復興の取り組みの紹介を行った。また、協賛団体による防災・復興の取り組みに関する展示も行い、延べ33,364人が来場した。

このうち、せんだいメディアテーク6階では、90以上の出展団体が発表を行うセッションを実施し、展示だけでは伝えきれない活動内容の紹介も行ったほか、東京エレクトロンホール宮城5階の会場では、国内外の諸団体による100以上のポスター展示が行われ、防災活動や復興の取り組みについての紹介を行った。



ブース展示(せんだいメディアテーク)



ポスター展示(東京エレクトロンホール宮城)

### 〈世界の防災展概要〉

	会場	日時	展示タイトル(概要)
ブ ー ス 展 示	せんだい メディアテーク	1F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>東北防災・復興パビリオン</b> 青森、岩手、宮城、福島の被災4県および仙台市が防災・復旧・復興に関する展示を行い、震災の経験や教訓を世界へ発信するとともに、仙台・東北の未来を広くアピールした。
		2F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>東日本大震災とミュージアム</b> 仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)によるミュージアムの被災と、復旧・復興過程における地域社会との関係についての展示を行った。
		2F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦活動記録 2003-2015</b> 大学生の建築卒業設計の大会における防災・復興に関連した受賞作や、運営する学生団体の復興支援活動を紹介するパネル展示を行った。
		3F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>仙台市民図書館 3.11震災文庫</b> 震災関連資料の収集、保存、提供を行い書架の一部を「3.11震災文庫」とし、展示を行った。
		5F 6F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>世界の防災展</b> 国内外の諸団体が、展示ブースで防災活動や復興の取り組みを紹介。また、協賛団体による防災・復興の取り組みに関する展示も行った。
		7F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>レコーディング イン プロGRESS -3がつ11にちをわすれないためにセンター活動報告展-</b> せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に寄せられた記録群から東日本大震災の様相の断片を映像や写真などの展示で紹介した。
		2F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>東北大学復興アクション～「東北復興・日本新生の先導」を目指して～</b> 復興・新生を先導する研究・教育・社会貢献活動を紹介する「8つの重点プロジェクト」(災害科学、地域医療、エネルギーなど)の展示を行った。
仙台市民会館	B1F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>世界の防災展</b> 国内外の諸団体が、展示ブースで防災活動や復興の取り組みの紹介を行った。	
東北大学 川内北キャンパス A棟	1F 3月14日～18日 10:00～20:00	<b>世界の防災展</b> 東北大学による防災や復興の研究成果に関する展示を行った。	
仙台市 情報・産業プラザ	5F 3月14日～18日 10:00～20:00 ※18日は～17:00	<b>世界の防災展</b> 国土交通省による防災・復興に関する展示を行った。	
仙台市 シルバーセンター	1F 3月15日 10:00～17:00	<b>世界の防災展</b> 仙台市による高齢者防災と介護福祉機器の展示を行った。	
ポ ス タ ー 展 示	東京エレクトロンホール 宮城	5F 3月14日～18日 10:00～20:00 ※18日は～15:00	<b>世界の防災展 / ポスター展示</b> 国内外の諸団体が、ポスターにより防災活動や復興の取り組みの紹介を行った。

## 2-6 東北防災・復興パビリオン

### 震災の事実と復興の歩み

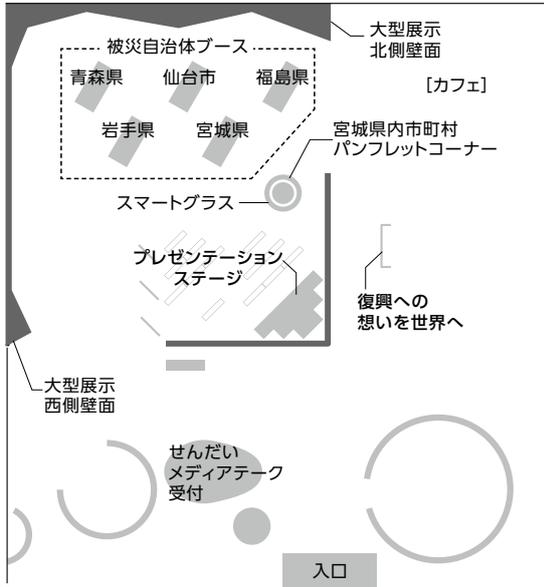
3月14日～18日、せんだいメディアテーク1階 オープンスクエアにて、「東北防災・復興パビリオン」を開催し、延べ10,427人が来場した。

ここでは、東北の被災県および宮城県内市町村の連携により、防災・復旧・復興に関する取り組みを展示し、震災の経験や教訓を世界へ発信した。



東日本大震災の被害概要などの大型展示(西側壁面)

〈せんだいメディアテーク1階 会場図〉



東日本大震災からの復興プロセスなどの大型展示(北側壁面)

### ■ 大型展示

東北在住の若手デザイナーや建築家、制作・デザインに携わるクリエイターとの協働により、被災直後の被災地の写真や震災の概要、他災害との比較、復興プロセス、被災地における防災・復興の取組事例など、東日本大震災の客観的事実を全長40mの壁面に展示した。

併せて、来場者が手元のタブレット端末を操作することで、東日本大震災の地震や津波の大きさ、過去・他地域の災害との比較について動画で見ることができるインタラクティブな展示を行った。

〈大型展示への協力自治体〉

自治体名	
青森県	おいらせ町
	階上町
	八戸市
	三沢市
岩手県	大槌町
	大船渡市
	釜石市
	田野畑村
	宮古市
	洋野町
	陸前高田市
宮城県	石巻市
	岩沼市
	女川町
	気仙沼市
	七ヶ浜町
	東松島市
	いわき市
福島県	大熊町
	相馬市
	富岡町
	浪江町
	双葉町
	南相馬市

※各県ごとに五十音順

B

実行委員会の取り組み

■ 被災自治体ブース

青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市が、それぞれの地域に特徴的な取り組みについて、展示を行った。



被災自治体ブース

■ 宮城県内市町村パンフレットコーナー

宮城県内の全市町村と連携し、各自治体のPRパンフレットを設置、配布した。

〈パンフレットコーナーへの協力自治体(宮城県内市町村)〉

自治体名	
石巻市	川崎町
塩竈市	丸森町
気仙沼市	亘理町
白石市	山元町
名取市	松島町
角田市	七ヶ浜町
多賀城市	利府町
岩沼市	大和町
登米市	大郷町
栗原市	富谷町
東松島市	大衡村
大崎市	色麻町
蔵王町	加美町
七ヶ宿町	涌谷町
大河原町	美里町
村田町	女川町
柴田町	南三陸町

■ スマートグラス

被災地の被災前・被災後をスマートグラスを通して俯瞰して見ることができるコーナーを設置した。

■ 復興への想いを世界へ

東北防災・復興パビリオンを見た後、写真を撮影してメッセージを書き込み、壁面へ貼り付けていくコーナーを設置。みんなの思いを来場した会議参加者と共有した。

また、撮影した写真を会議公式ロゴマーク入り用紙にプリントし、参加者に来場記念として配布した。



メッセージ入り写真を撮影する様子

■ プレゼンテーションステージ

25以上のさまざまな団体が、震災の経験、防災への取り組み、復興に向けたチャレンジについて、プレゼンテーションを行った。また、津波被害から復活した伝統芸能「雄勝法印神楽」の上演、女川さいがいエフエムによる公開収録なども実施した。



プレゼンテーションステージ

〈プレゼンテーションステージ概要〉

日程	自治体名	プレゼンテーションテーマ	発表団体	
3月14日	10:00 -10:30	石巻市	「雄勝法印神楽」復興の軌跡	雄勝法印神楽保存会
	11:00 -11:30	宮城県	津波浸水表示板設置事業について ～3.11伝承減災プロジェクト～	宮城県 仙台市若林区藤田町内会
	12:00 -12:30	仙台市	被災地域のクリエイターによる 東日本大震災と復興の発信	せんだいスクール・オブ・デザイン
	13:00 -13:30	岩手県	国際リニアコライダー計画の実現に向けて	岩手県
	14:00 -14:30	岩沼市	自然と共生した先進的な防災対策「千年希望の丘」	千年希望の丘協会
	15:00 -15:30	兵庫県淡路市	震災を語り伝えるために	北淡震災記念公園
	16:00 -16:30 17:00 -17:30	女川町	女川さいがいエフエム公開収録 第1部:女川町「千年に一度のまちづくり」 第2部:いざ出航! 新生元年 来てください!	女川さいがいエフエム 女川町 女川みらい創造(株) 復興まちづくり女川(同)会社 (特非) アスヘノキボウ
3月15日	10:00 -10:30	仙台市	仙台発そなえゲーム	市民協働による地域防災推進実行委員会
	11:00 -11:30	色麻町	情報とエネルギーを繋ぐ官民連携防災という、 これからの新たな取り組み	色麻町 積水ハウス(株)東北工場
	12:00 -12:30	栗原市	平成20年岩手・宮城内陸地震からの復旧・復興	栗原市
	13:00 -13:30	福島県南相馬市	医療者が支援する南相馬市復興への取り組み	南相馬市立総合病院
	14:00 -14:30	気仙沼市	東日本大震災と気仙沼市における防災対策の変化	気仙沼市
	15:00 -15:30	名取市	心のケアとしての閉上の記憶 (津波復興祈念資料館)	(特非)地球のステージ 閉上の記憶
	16:00 -16:30	東松島市	東松島式震災ごみリサイクル	東松島市
	17:00 -17:30	東松島市	東松島市におけるHOPEの取り組みについて	(一社) 東松島みらいとし機構 (HOPE)
3月16日	12:00 -12:30	宮城県	語り続ける理由 ～宮城県石巻市の語り部～	(一社) みらいサポート石巻
	13:00 -13:30	名取市	名取市「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」 これまでとこれから	(公財)オイスカ
	14:00 -14:30	多賀城市	減災都市 多賀城の実現へ向けて	多賀城市
	15:00 -15:30	岩手県	巨大災害と復興 ～岩手からの提言	岩手県
3月17日	12:00 -12:30	福島県	ふくしまの「魅力」と「今」 ～ふくしまから チャレンジ はじめよう!!～	チームキビタン
	13:00 -13:30	仙台市	仙台市の復興の現状	仙台市
	14:00 -14:30	青森県八戸市	次なる大震災・大津波に備えて ～八戸市防災教室支援事業と青森県防災士会の活動～	青森県防災士会
	15:00 -15:30	宮城県	宮城県における東日本大震災の検証と記録	宮城県
3月18日	13:00 -13:30	宮城県	宮城県における災害に強いまちづくりについて	宮城県
	14:00 -14:30	仙台市	震災復興 ～仙台市若林区の味方(みりょく)あふれる復興を目指して～	(一社)ReRoots

## 2-7 防災産業展 in 仙台

3月15日～17日、津波の被害から復旧を遂げた「夢メッセみやぎ」を会場に、防災技術の展示会である「防災産業展 in 仙台」が内閣府、宮城県、日刊工業新聞社の主催により開催された。

会場には、免震装置や災害備蓄品、復旧作業用重機など、実際に震災時に活躍した製品に加え、エネルギーや情報の途絶といった震災の教訓を踏まえて開発された、給電車両や情報通信システムなどの最新技術が展示され、各国の閣僚級を含む延べ5,827人が来場した。

また、併せて開催した「防災産業シンポジウム」では、災害時だけでなく、環境性・経済性などの面で平時にも有用な我が国の防災技術を広く世界に普及させ、各国の防災対策に貢献するためにも、防災産業の育成が不可欠との提言がなされた。



屋内展示の様子(提供:国連)



陸上自衛隊による屋外展示(提供:国連)

## 2-8 屋外展示

市民に気軽に足を運んでもらい、防災を身近なものとして体感してもらうことを目的として、「せんだい防災のひろば」、「国際交流のひろば」、「消防訓練・車両展示」を勾当台公園・同市民広場で開催した。



### 2-8-1 せんだい防災のひろば

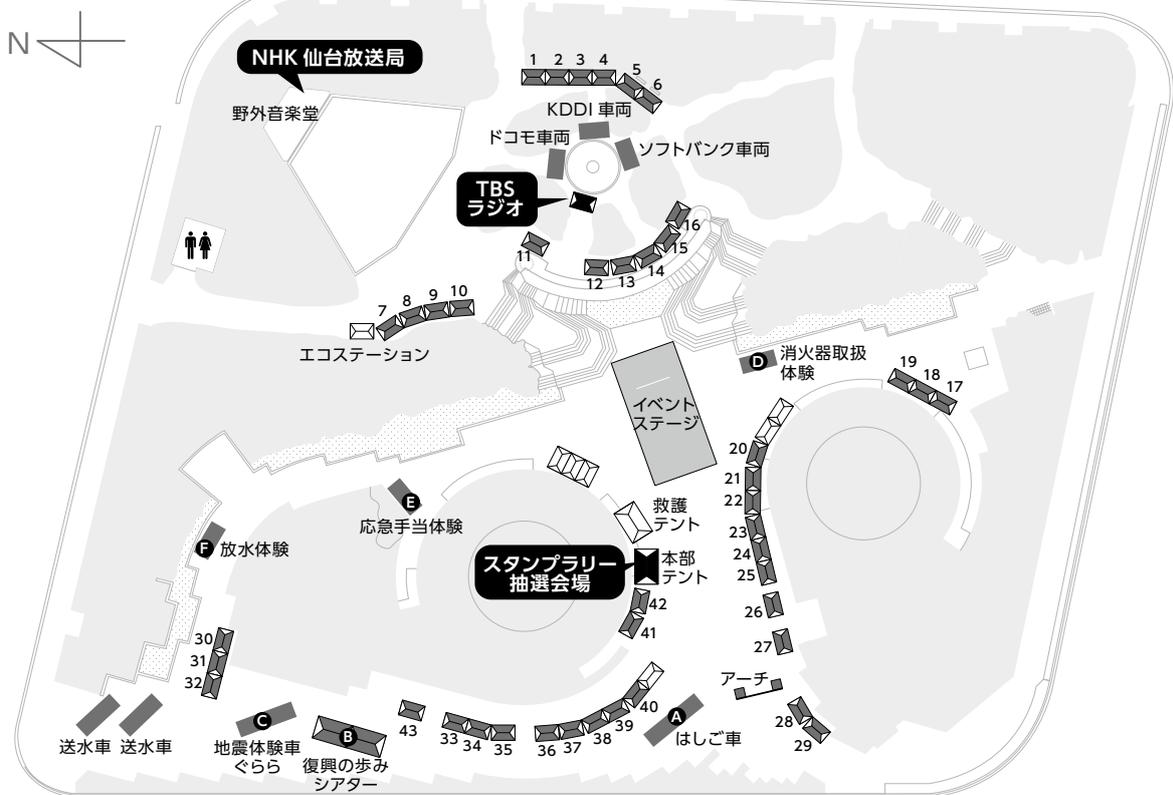
3月14日～15日、「ひとりひとりの防災が、みんなの防災へ」をテーマに、楽しみながら防災・減災について学べる「せんだい防災のひろば」を勾当台公園にて開催した。

参加型災害対応カードゲーム「クロスロード」、消防士体験コーナー、体験・試食コーナー(ライフライン関係各社、備蓄食品メーカー、放送局ブース、復興の歩みシアター)、自衛隊音楽隊、消防音楽隊や伊達武将隊などによるステージ、NHK仙台放送局による野外音楽堂ステージなど多彩なイベントを行った。



会場の様子

● せんだい防災のひろば  
会場図



● 出展団体

ライフライン各社コーナー	テント番号
NTTドコモ東北支社	2
KDDI	3
ソフトバンクモバイル	4
NTT東日本 宮城事業部	5
東北電力 宮城支店	28
仙台市ガス局	30
放送局コーナー	テント番号
NHK仙台放送局	1
ジェイコム仙台キャベツ	6
TBC東北放送	11
仙台放送	23
ミヤギテレビ	27

軽食販売コーナー	テント番号
社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会	24
就労継続支援A型事業所 大きなボック	25
ぱれったいけやき宮城[Ciao]	26
備蓄食品コーナー	テント番号
カゴメ	15
大塚製菓	16
アックアララ東北	22
非常食研究所(15日のみ)	33
井村屋	34

実験体験コーナー	テント番号
BEAUTY'S	17
まごのてくらぶ	
救命ボランティア サークル FAST	18
防災・減災サークル PASS	
障害者スポーツ サークル ADVANCE	19
SSG仙台発そなえゲーム(14日のみ)	20
ジャパンケネルクラブ [災害救助犬]	21
仙台八木山防災連絡会 [1回15円!女子から目線の簡易トイレ]	32
わしん倶楽部 [楽しく学ぶ防災・減災教室]	41
国土交通省気象庁 仙台管区気象台	12
地震体験車ぐらら	C

展示コーナー	テント番号
一般社団法人 宮城県建築士会	13
公益社団法人 仙台市防災安全協会	14
JPEX 宮城県支部	29
東北大学災害科学国際研究所	31
今野梱包 [ダンボール素材での提案]	35
仙台市消防機器事業協同組合	36
仙台ライフライン 防災情報ネットワーク	37
特定非営利活動法人 みやぎ災害救援ボランティアセンター	43
仙台市消防局 [社の都防災メール登録ブース]	42
1週間分の備蓄食展示 100円防災グッズ展示 減災啓発ブース 他	38 39 40

青葉消防署非常食 試食コーナー (青葉地区婦人防火クラブ)	テント番号
非常食(アルファ米) 試食コーナー	7
あったか汁試食コーナー	8
もちつき体験・試食コーナー	9
豚汁・玉こんにゃくコーナー	10
消防士体験コーナー	テント番号
はしご車搭乗体験	A
消火器取扱体験	D
応急手当体験	E
放水体験	F
復興の歩みシアター オモイデ ビース制作プロジェクト	テント番号
	B

B  
実行委員会の取り組み

2-8-2 国際交流のひろば

3月14～18日、勾当台公園市民広場では、世界各国の料理・文化を楽しみながら国際交流を行える、「国際交流のひろば」を開催した。

「ワールドキッチン」では18の屋台が並び、世界各国の個性あふれる料理が提供された。また、世界各国から仙台に集まった会議参加者との交流のスペースとして設置された「ピープルズ・パビリオン」や「JICA(ジャイカ)ひろば」では、展示やワークショップ等が開催され、国際交流と防災を同時に学ぶ貴重な場となった。

そのほか、災害時に活躍した陸上自衛隊によるかき汁の炊き出し、仙台市消防団による伝統階子(はしご)乗りの演技、水道管の復旧実演、災害対応車両の展示などが実施された。

■ワールドキッチン

ブース名		ブース名	
 フランス	オーボン・フェルマン	 インド	ヒロレーシング
 インド	インド料理ザムザム(ハラール)	 アメリカ	モンタナ
 日本	自然農園	 日本/宮城	SUZTAKE
 ブラジル	ゴザイン	 メキシコ	カーサ・デル・ソル
 メキシコ	ヴァンドーム	 イラン	アミラン株式会社
 韓国	在日本大韓国民団宮城県地方本部(オモコの店)	 イタリア	バルバ
 アメリカ/他	金井牧場	 インド/他	the屋台 タカサキヤ
 ロシア	スラブ料理アリョンカ	 韓国	韓国料理教室
 日本/京都	やまとなでしこ応援団	 日本/宮城	牛たんのせんだい



ワールドキッチン

■ブース展示

出展者名	内容
建物の津波実験	津波に弱い建物・強い建物
JICA(ジャイカ)ひろば	国際協力・復興支援の事業紹介、津波伝承紙芝居の上演、ボランティアや国際緊急援助隊のテント等
郵便局	切手、葉書を中心とした郵便関係商品の販売
(一社)日本アマチュア無線連盟	アマチュア無線の非常通信に関するPR資料を配布予定
ダテバイク	ダテバイクコミュニティサイクルの紹介 会員加入の促進 リーフレットの配布
積水ハウス(株)「おりひめトイレ」	女性専用仮設トイレ「おりひめトイレ」を展示
仙台市花卉園芸振興協議会	2m×2mの花壇のオブジェ展示
多目的交流テント「ピープルズ・パビリオン」	設営テント内でセミナーやイベントを実施
エムシードック(株)	総合防災案内パネルの展示
警察庁	災害救助デモンストレーション パネル展示・ビデオ放映等
警察庁	車両展示
国土交通省 東北地方整備局	“見て、ふれて”災害対策車両
仙台市水道局・宮城県管工業協同組合	水道管の復旧実演・給水車での給水体験。水備蓄宣言で「水」ゲット!
宮城県解体工事業協同組合	重機の展示
(一財)宮城県薬剤師会	Mobile Pharmacy(災害対応医薬品供給車両)の展示、資料の配布
陸上自衛隊	炊き出し、パネル展示・ビデオ放映、装備品展示
仙台市消防団階子(はしご)乗り	階子(はしご)乗り演技



ピープルズ・パビリオン



警察庁による救助犬デモンストレーション

### 2-8-3 消防訓練・車両展示

3月14日～15日、仙台市役所本庁舎前庭にて、「消防訓練・車両展示」を開催した。

仙台市消防局はロープを使用しての降下訓練・救出訓練を、東京消防庁は化学工場での事故を想定した訓練を実施し、市民の安全安心のために日々活動する消防隊の的確かつ迅速な動作を披露した。

車両展示では、ブローカー車、ウォーターカッター車、偵察車、水陸両用バギーなどの特殊な消防車両が展示された。



仙台市消防局による訓練の様子



特殊高度工作車の展示

# 3

## 歓迎事業

### 3-1

### 実行委員会主催 レセプション

3月15日夜、本体会議参加者、国連関係者、日本政府、地元関係者、協賛企業などを招待した実行委員会主催のレセプションをホテルメトロポリタン仙台にて開催。モリ・ミクロネシア連邦大統領、ムケレジ・ルワンダ共和国首相、バゾムバンザ・ブルンジ共和国第一副大統領の首脳級、マルグリット・オランダ王国王女を含む1,050人が参加した。

すずめ踊りの演舞で始まったレセプションでは、世界各国からの参加者への歓迎の意と復興支援への感謝を表するとともに、風評被害の払拭と東北の魅力のアピールすることを目的に、東北六県の豊かな食材を使用した料理の提供、各県の観光PR、伝統文化のステージアトラクションなど、東北らしさを演出したおもてなしを行った。

#### プログラム

- 19:00 仙台すずめ踊り  
奥山会長による開会挨拶  
フルストロム国連事務総長特別代表(防災担当)による来賓挨拶  
竹下復興大臣による来賓挨拶  
鏡開き  
赤澤内閣府副大臣による乾杯
- 19:50 料理紹介(ホテル総料理長)  
やまがた舞子による演舞  
南津島郷土芸能保存会による神楽  
仙台フィルハーモニー管弦楽団による演奏
- 20:50 西澤仙台市議会議長による中締め



鏡開きの様子



会場の様子



東北六県の食材を使用した料理

〈東北六県から提供された食材〉

県名	食材	ブランド	県名	食材	ブランド	
青森県	マグロ	大間産本マグロ(中トロ・赤身)	山形県	ワイン	ドメインヌ・タケダ ベリーA古木 赤	
	ホッキガイ	三沢産ホッキ貝			メルロ 赤	
	ヒラメ	陸奥湾産活締めヒラメ			原崎シャルドネ	
	イカ	陸奥湾産ヤリイカ			山口地区シャルドネ	
	リキュール	りんごに恋したお酒			特醸月山 赤	
		んめー梅酒			メルロー樽熟成 赤	
	ブランデー	アップルブランデー弘前			マイスターセレクション キュベ 赤	
	シードル	青森シードル			セレクト・ルージュ 赤	
ワイン	下北ワイン	マイスターセレクション キュベ シャルドネ 白				
岩手県	牛肉	前沢牛ウチモモ			シャトーモンサン特選 赤	
		前沢牛ランイチ			シャトーモンサン特選 白	
	アワビ	活あわび150gサイズ			ジャトーモンサン エクセラシオン 赤	
	ニジマス	八幡平サーモン			ジャトーモンサン エクセラシオン 白	
	ワカメ	三陸産生ワカメ			オオウラ・メルロ 赤	
	マツモ	三陸産マツモ			オオウラ・カベルネ 赤	
	ふのり	三陸産ふのり			パレルエージング 白	
	カニ	毛がに			パレルエージング 赤	
	エビ	アミエビ			鳥上坂 マスカットベリーAブラッククイーン	
	リキュール				糖類無添加 梅酒	赤湯ワイン 赤
					糖類無添加 ゆず レモン酒	シャルドネ 白
			Liquor Sweets いわて山ぶどう	金沢シュール・リー 白		
			Liquor Sweets いわて完熟リンゴ	金沢ピノ・ノワール 赤		
			Liquor Sweets いわてアロニア	高島パリック・カベルネ樽熟成 赤		
			Liquor Sweets みかん	高島パリック・メルロー樽熟成 赤		
			Liquor Sweets ミルキーヨーグルト	高島シャルドネ樽熟成ナイトハーベスト 白		
	ワイン		山ぶどうワイン	高島パリック・シャルドネ樽熟成 白		
			山ぶどうワインクラシック	高島パリック・プレミアムロゼ樽熟成 白		
ほたる赤						
フォーレ(赤)						
		ほたるスパークリング赤				
果実・野菜飲料	6カ月熟成ぶどうジュース					
宮城県	牛肉	仙台牛	牛肉	福島牛リブ・サーロインセット		
	フカヒレ	県内産フカヒレ	鶏肉	川俣しゃも		
	ワイン	ミガキイチゴ・ムスー	サーモン	阿武隈メープルサーモン		
	果実・野菜飲料	デリシャストマトジュース	トマト	いわき産トマト		
秋田県	アワビ	白神活あわび	車麩	福島県産車麩		
	鶏肉	比内地鶏	こんにゃく	つるりんこんにゃく		
	うどん	稲庭うどん	姫竹水煮	会津産姫竹水煮		
	漬け物	いぶりがつこ	わらび水煮	会津産わらび水煮		
	きりたんぼ	きりたんぼ	なめこ	会津産なめこ		
	日本酒	秀よしラシャンテ	福島県	日本酒	瓶内発酵スパークリング純米吟醸	
					純米大吟醸スパークリング	
		微発泡酒ぶちぶち				
		ビール			ピーチエール	
		ワイン			北会津ワイン	
			新鶴ワイン			
		リキュール		微発泡酒梅ぶち		
				生もと梅酒		
				美祿の森		
				スノードロップ		

### 3-2 国際航業(株)・ 仙台市共催レセプション

3月16日夜、国際航業株式会社と仙台市の共催によるレセプション(Private Sector & Local Governments Reception)が仙台国際ホテルにて開催され、各国政府関係者、国連のメジャーグループ関係者、国連の「世界防災キャンペーン」参加都市の首長など537人の方々が出席した。

UNISDRプライベート・セクター・アドバイザリー・グループの議長でもある国際航業(株)の呉代表取締役会長の挨拶で始まったレセプションでは、UNISDRと日本防災プラットフォーム、オランダ政府とのレジリエントな都市の連携(Resilient Cities Connect)の実現に向けた調印式が行われたほか、世界防災キャンペーン参加都市の首長などの集合写真撮影、プライベート・セクター関係者による集合写真撮影などが行われた。

また、会場内には、震災時から現在に至るまでの航空写真などが展示された。津波被害を受けた家屋から運び出された着物を着たスタッフの人気は高く、閉会時間を過ぎても撮影会が行われるなど、世界各国から来場した参加者の笑顔があふれるレセプションとなった。



呉国際航業(株)代表取締役会長による開会挨拶

#### プログラム

- 19:30 呉国際航業(株)代表取締役会長による開会挨拶
- 奥山市長による挨拶
- ワルストロム国連事務総長特別代表(防災担当)による来賓挨拶
- 赤澤内閣府副大臣による来賓挨拶
- 菅沼第3回国連防災世界会議担当大使による来賓挨拶
- 橋本日本アイ・ビー・エム株式会社副会長による乾杯
- Resilient Cities Connect調印式、撮影
- 世界防災キャンペーン参加者による集合写真撮影
- 国連プライベート・セクター・パートナーシップ参加者による集合写真撮影
- 21:00 中締め



世界防災キャンペーン参加都市の首長などによる記念撮影

### 3-3 東北おもてなしセンター

3月14日～18日、仙台市博物館1階ロビーに「東北おもてなしセンター」を開設し、会議参加者のリフレッシュスペースとして、東北六県の観光案内、日本の伝統文化の体験などのおもてなしを行った。世界各国から来仙した本体会議参加者に対して、日本茶や東北特産の果物で作られたジュース、東北のお菓子などを振る舞ったほか、習字やこけしの絵付け、着物の着付けなどの体験を通じて、仙台・東北の魅力を発信した。

また、仙台市博物館による国連防災世界会議開催記念として「DAIMYOー仙台藩と伊達家の名品」を開催し、ユネスコ記憶遺産登録資料3点をはじめとする、国宝 慶長遣欧使節関係資料重要文化財 黒漆五枚胴具足(伊達政宗所用)や水玉模様陣羽織など、博物館の代表的な資料が一堂に会する展示を行った。



抹茶体験



生け花体験

#### 〈体験・展示内容〉

団体名	内容
日本伝統文化の会	生け花、煎茶、抹茶(表千家、裏千家)、折り紙、書道、着付けの体験
八重桜仙台タンス工房	仙台箆笥の展示、金具打ち実演
仙台木地製作所	宮城伝統こけしの展示と実演
JA仙台	仙台米のPR、米俵とパネル展示
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	特産品の試食・試飲、観光PRパネル展示、パンフレット配布
ジャパンクレイアート仙台	クレイアート(鉢花)の展示とガーベラ(造花)のプレゼント



仙台市博物館による会議開催記念展示「DAIMYO」

〈東北六県から提供された特産品〉

県名	種類	特産品名	県名	種類	特産品名		
青森県	缶飲料	旬の林檎「密閉搾り」	宮城県	菓子	萩の月		
	瓶飲料	スパークリングアップル			支倉焼		
	菓子	パティシエのりんごスティック	ペットボトル飲料	伊達茶			
	珍味	ヒモ付ソフトほたて	秋田県	瓶飲料	大沢葡萄ジュース		
岩手県	缶飲料	ピーチジュース	秋田県	菓子	ハチ公サブレ		
		ブルーベリードリンク			ミルクー(秋田ババヘラ)		
		ラ・フランスジュース	山形県	缶飲料	「山形代表」りんご		
		りんごジュース			「山形代表」ら・ふらんす		
		洋梨ドリンク			「山形代表」ぶどう(赤)		
		さるなしドリンク			「山形代表」ぶどう(白)		
		龍泉洞コーヒーオリジナル			「山形代表」もも		
		龍泉洞コーヒーブラック			「山形代表」とまと		
	ペットボトル飲料	龍泉洞ウーロン茶			山形県	ペットボトル飲料	「山形代表」かき
		龍泉洞のじつ茶ばっ茶					つや姫玄米茶
		龍泉洞の緑茶	おいしい山形の水				
		龍泉洞の水	菓子	でん六豆			
	菓子	peccoがんづき		おしどりミルクケーキ			
		peccoゆべしくるみ		だだちゃ豆せんべい			
		peccoエビの雑穀もなか		新庄の花あじさい			
		pecco岩谷堂ミニ羊羹 本練	福島県	菓子	ままだおる		
		pecco岩谷堂ミニ羊羹 くるみ			福に幸あり		
		pecco岩谷堂ミニ羊羹 黒練			いいたて雪っ娘 マドレーヌ		
		peccoチョコっと南部煎餅 抹茶			めひかり塩チョコ		
		peccoチョコっと南部煎餅 いちご	ペットボトル飲料	あぶくま天然水			
peccoチョコっと南部煎餅 コーヒー		缶飲料	伊達の密桃				
pecco南部煎餅くつきー かぼちゃ			リンゴジュース				
pecco南部煎餅くつきー ココア			南郷トマトジュース(無塩)				
pecco南部煎餅くつきー 黒ゴマきなこ		瓶飲料	aWa心水				
pecco南部煎餅くつきー 落花生							
peccod大豆くつきー							
pecco林檎っち							
peccoかりんとうプレッツェル宮古の塩							

## 3-4 視察・観光プログラム

### 3-4-1 スタディツアー（被災地公式視察）

3月14日～18日、本体会議参加者に被災地の現状を視察していただくことにより、東日本大震災の経験と教訓、復興の状況を発信することを目的とし

て、スタディツアーを実施した。また、本体会議に登録した取材記者等を対象にしたプレス専用ツアーを催行した。

旅程は半日～1日程度で、仙台市内の被災地や、復旧・復興の現場を巡るもののほか、宮城県内の被災地を巡るもの、県外まで足を延ばすものなど、多様なツアー25コース42本が催行され、延べ635人が参加した。

No	コース名 / 主な視察先	企画・運営	旅程	催行回数	参加人数
1(P)	津波への備え・多重防御見学コース／仙台東部沿岸（かさ上げ道路、海岸防災林、荒浜小学校、津波避難タワー（日鐵住金建材仙台製造所もしくは仙台市）等）	実行委員会	半日	5	102
2	津波被災地における自然の再生／蒲生干潟、南蒲生町内会、南蒲生地区居久根、海岸公園冒険広場			2	20
3	津波被災地における農業の復興／農業園芸センター、大堀排水機場、大規模水耕施設（株みちさき）、おにぎり茶屋ちかちゃん			2	57
4	レジリエントな都市インフラ／南蒲生浄化センター、ガス局港工場			1	12
5	津波被災した小学校の校舎内視察／荒浜小学校			2	32
6	レジリエントで、地球に優しいまちづくり／田子西地区（エコモデルタウン）			1	13
7	津波被災地・石巻における、人々のなりわいの復興／日和山公園、日本製紙石巻工場、門脇小学校、石巻魚市場、津波避難ビル（宮城エキスプレス）、復興情報交流館			1	28
8	東北大学ガイドツアー／東北大学各キャンパス			4	27
9(P)	民間セクターによる災害リスク軽減 ～津波被災地のビール工場から学ぶ～／キリンビール仙台工場			2	20
10	若い世代への防災教育／仙台市青陵中等教育学校			1	11
11	障害者インクルーシブな防災教育／宮城教育大学附属特別支援学校			1	10
12	民間セクターによる災害リスク軽減 ～防災訓練を体験する～／青葉通まちづくり協議会、藤崎			1	12
13	津波被災地・關上の復興／關上地区、日和山、メイプル館（名取市）			1	28
14	津波被災地・關上の復興（朝市コース）／ゆりあげ港朝市、メイプル館（名取市）			1	9
15	津波よけ「千年希望の丘」と住民主体の防災まちづくり／千年希望の丘、メガソーラー、玉浦西地区（岩沼市）			2	42
16	官民連携による地域防災への取り組みと先進の住宅防災技術 ～共助による災害に強い「まち」を目指して～／色麻町、積水ハウス東北工場			4	74
17	荒砥沢 大規模地すべり災害の爪痕 ～2008年 岩手・宮城内陸地震の教訓～／荒砥沢崩落現場、ハイルザーム栗駒、栗原市消防庁舎	1	17		
18	復興ふくしま ～津波被害から復興と漁業の取り組み～／相馬港・復興公営住宅・和田いちご園（相馬市）	福島県	1日	1	18
19	復興ふくしま ～食の安全安心～／農業総合センター（郡山市）、大七酒蔵（二本松市）、四季の里、東部学校給食センター（福島市）			1	22
20	最新技術を用いた復興の加速化と震災の伝承～陸前高田市における大規模かさ上げ工事と大船渡市の震災遺構～／希望の架け橋（長大な土砂運搬ベルトコンベア）、奇跡の一本松、復興まちづくり情報館（陸前高田市）、大船渡津波伝承館等	岩手県	1日	1	21
21	「釜石の奇跡」と自治体水平補完 ～釜石市における防災教育の取り組みと遠野市における後方支援活動～／鶴住居地区、本郷地区（釜石市）、総合防災センター（遠野市）等			1	14
22	千年に一度の町づくり ～歴史に学んだ女川原発の安全対策～／石巻魚市場、女川町地域医療センター、女川原子力発電所、女川町さばうのかね商店街	宮城県	半日	1	3
23	トモダチ作戦と奇跡の復旧 ～仙台空港と事業継続マネジメント～／仙台空港、仙台港、夢メッセみやぎ、JX日鉱日石エネルギー			1	7
24(P)	福島第一原子力発電所 ～除染と廃炉～／福島第一原子力発電所	資源エネルギー庁、福島県	1日	3	18
25(P)	〔プレスツアー〕教訓の伝承と三陸鉄道の取り組み ～釜石市における伝承の取り組みと三陸鉄道の復旧工事～／釜石仙寿院、三陸鉄道震災学習列車乗車（盛駅～三陸駅）、三陸鉄道の復旧現場（大船渡市）	岩手県		1	18
				合計	635

※(P)はプレス専用ツアーを含むコース



荒浜地区(仙台市)



田子西地区(仙台市)



青陵中等教育学校(仙台市)



日和山(石巻市)



千年希望の丘(岩沼市)



積水ハウス東北工場(色麻町)



荒砥沢崩落現場(栗原市)



相馬港(福島県相馬市)



B

実行委員会の取り組み

3-4-2 エクスカーション

3月18日～20日、東北の自然、歴史、食などの多様な魅力を楽しんでもらうことを目的に、東北各県の企画・運営の下、5コースのエクスカーションが実施され、38人が参加した。参加者は、温泉・寺・酒蔵等の名所や復興の現場を訪問するとともに、各県の魅力あふれる伝統文化に触れ、日帰りまたは1泊2日の旅程を満喫した。



和装体験(山形県・銀山温泉)



抹茶体験(宮城県松島町・観瀾亭)

No	コース名 / 主な視察先	企画・運営	催行日	参加人数
1	リアスの復興と、津波に耐えた奇跡の湾 塩竈(神社・酒蔵・寿司)、松島(観光船での松島湾クルーズ、瑞巖寺、観瀾亭での抹茶体験、こけし絵付け)、気仙沼(魚市場、リアスアーク美術館)、南三陸(復興商店街)	宮城県	3月19日～20日	3
2	世界遺産と世界で最も美しい湾 松島(観光船での松島湾クルーズ・瑞巖寺、観瀾亭・五大堂)、平泉(毛越寺、中尊寺等)	岩手県・宮城県	3月19日	19
3	大自然の芸術品樹氷鑑賞と、雪国の伝統文化体験 蔵王温泉(樹氷、山形舞子鑑賞)、最上川舟下り、銀山温泉(和装体験)	山形県	3月18日～19日	3
4	復興ふくしま ～震災から立ち上がる福島県～ 新地町、和田いちご園、復興交流支援センター、JA新ふくしま、民家園、農業総合センター、デコ屋敷、酒蔵、文化財センター白河館まほろん等	福島県	3月19日～20日	7
5	復興ふくしま ～創造と伝統の融合～ 除染情報プラザ、カーちゃんの力、農業総合センター、再生可能エネルギー研究所、會空、鶴ヶ城、嘉永蔵等		3月19日～20日	6
合計				38

### 3-4-3 配偶者プログラム

会議参加者の配偶者を対象に、仙台市内の温泉地で日本文化とおもてなしを楽しむ日帰りプログラムを実施した。3月14日は秋保温泉コース、15日は作並温泉コースを催行。プログラムには、地元の歓迎や、日本文化の体感・体験を盛り込み、仙台の魅力を感じてもらおう機会となるよう工夫をした。2コース合計で16人が参加した。



湯元小学校児童とのこけし絵付け体験



定義観光

No	コース名 / 主な視察先	企画・運営	催行日	参加人数
1	文化体験ツアー（秋保温泉） 秋保大滝、秋保温泉（浴衣・和食・入浴体験、やまがた舞子見学）、湯元小学校（湯元太鼓見学、工芸体験）	実行委員会	3月14日	4
2	文化体験ツアー（作並温泉） ニッカウキスキー工場見学、作並温泉（浴衣・和食・入浴体験、すずめ踊り・広陵太鼓見学・演奏体験）、定義観光		3月15日	12
			合計	16

### 3-5 歓迎装飾

街全体で歓迎ムードを創出し、会議開催の機運を高めるため、平成27年1月14日より仙台市中心部の商店街や主要道路、JR仙台駅などにフラッグや横断幕を掲出。続いて、地下鉄の駅構内および車内、市営バス車内に広告を掲出した。

また、3月13日～18日には、仙台空港ターミナルビルの国内線・国際線出入口および同ビルと仙台空港アクセス鉄道仙台空港駅間の連絡通路に看板を設置。空路で訪れた会議参加者を出迎えた。



街の歓迎フラッグ

#### ■フラッグ、横断幕、看板、交通広告一覧

種別	場所	枚数	期間
駅貼り広告	仙台市地下鉄（泉中央駅、八乙女駅、台原駅、北仙台駅、勾当台公園駅、広瀬通駅、仙台駅、長町駅、長町南駅）	42 枚	1月14日～3月20日
横断幕	クリスロード	3 枚	1月14日～3月18日
中吊り広告	仙台市地下鉄（車両内）	160 枚	1月14日～3月20日
フラッグ	駅前ガス燈、青葉通、ハピナ名掛丁、マープルロードおおまち、サンモール一番町、ぶらんどーむ一番町、一番町四丁目、定禅寺通、せんだいメディアテーク	391 枚	1月14日～3月18日
	大町交番～国際センター	21 枚	1月22日～3月18日
	JR 仙台駅（2階中央改札口上部）	6 枚	3月1日～3月18日
	宮城野通	201 枚	3月6日～3月18日
運転席後部電照広告	仙台市営バス（車内）	130 枚	1月19日～3月18日
柱巻き広告	仙台市地下鉄（仙台駅東西自由通路）	12 本	2月1日～3月30日
	仙台市地下鉄（勾当台公園駅）	14 本	2月1日～3月30日
ドアガラスステッカー	仙台市地下鉄	168 枚	2月1日～3月30日
看板	仙台空港（国内線・国際線出入口上部）	2 枚	3月13日～3月18日
	仙台空港アクセス鉄道（仙台空港駅 - 仙台空港ターミナル間連絡通路）	1 枚	3月13日～3月18日

## 3-6 東北観光物産展

国内外から訪れる方々のおもてなしと、来仙された方々に仙台の街を楽しんでいただくことを目的に、仙台・東北六県のおいしいものや特産品を集めた観光物産展が市内中心部の複数会場で開催された。



東北観光物産展の様子(JR仙台駅)

### ●東北観光物産展

期間／3月12日～18日

会場／JR仙台駅2階中央広場

### ●復興物産市 東北いいもんパーク

期間／3月13日～16日

会場／東北ろっけんパーク

### ●伊達美味(うま)マーケット

期間／3月13日～18日

会場／サンモール一番町商店街

### ●仙台市工芸展

期間／3月6日～19日

会場／丸善仙台アエル店1階ギャラリー

## 3-7 その他おもてなしの取り組み

仙台の街を楽しんでもらうとともに、仙台・東北の歴史や文化、そして「今」をより知ってもらうことを目的に、「伊達なおもてなし」と題した歓迎イベント、ツアーなどを企画。仙台すずめ踊り演舞や七夕飾り、仙台・青葉まつりの山鉾展示や伊達家ゆかりの場所を巡るバスツアーや街歩きツアーのほか、東北の自然、歴史、食など多様な魅力を楽しんでいただくもの、東日本大震災の復旧・復興の現場を巡るものなどさまざまなバスツアーなどが開催され、会議期間中に来仙した方々や市民などが多数参加した。



街歩きツアー(仙名城跡)(提供:国連)



観光案内やパネル展示を行った仙台南びっく

## ■伊達なおもてなし

	イベント・コース名	開催日程	開催場所 / 訪問エリア
歓迎イベント	仙台すずめ踊り演舞	3月14日、15日	JR 仙台駅 2階
	定禅寺ストリートジャズフェスティバルスプリングステージ	3月14日、15日	仙台ファーストタワーアトリウム
	スペシャルエレクトーンステージ	3月14日、15日	仙台ファーストタワーアトリウム
	仙台五大まつり写真展	3月9日～31日	青葉通地下道ギャラリー
	仙台産農産物朝食フェア	3月5日～22日	市内5つの飲食店
	七夕飾り展示	3月13日～20日	仙台ファーストタワーアトリウム
	仙台・青葉まつり山鉾展示	3月13日～18日	サンモール一番町商店街
	震災復興のパネル展示	3月14日～18日	仙台南びく
	国分町バルめぐり	2月20日～3月19日	国分町エリア
バスツアー	旧伊達邸での名物牛タンのご昼食と仙台的奥座敷秋保半日観光	3月13日	仙台市
	定義・作並 伊達美味めぐり	3月16日、18日	仙台市
	海のまち・石巻と女川町「復興まちづくり」への挑戦	3月14日、18日	石巻市、女川町
	語り部と映像で見る聴く 日本三景松島と南三陸町 ～海の幸グルメとゆったり温泉の2日間～	3月14日～15日 一泊	仙台市、松島町、岩手県南三陸町
	仙台のルーツと被災地復興を語り部と映像で見る聴く半日観光	3月16日、18日	仙台市荒浜、名取市関上
	語り部と一緒に巡る南相馬	3月17日	名取市、福島県南相馬市
	女性のための温泉めぐり、肌と泉質のイイ関係を学ぶ	3月19日	大崎市鳴子温泉、山形県最上町赤倉温泉
街歩きツアー	瑞鳳殿 ガイドツアー	3月14日～18日	瑞鳳殿境内
	奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊 仙台城下めぐり	3月14日～18日	仙台市中心部
	奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊 仙台城ツアー	3月14日～18日	仙台城跡

## 3-8 要人視察への対応

外務省や在京各国大使館からの要請により、各国要人の被災地視察、パブリック・フォーラム会場の見学などに対応した。

3月15日には、潘国連事務総長夫妻が、東日本大震災の津波の直撃により壊滅的な被害を受けた南蒲生浄化センターや、住民主導の地域づくりに取り組む南蒲生町内会を視察。また3月16日には、オランダのマルグリット王女が、津波浸水地域である東部沿岸地域(仙台市若林区)を訪れ、農地の復興状況にふれるとともに、震災後、新たに組合を設立し複合経営に取り組む女性農業者と懇談するなど、各国要人に、震災遺構、コミュニティの再生、農業の六次産業化などのさまざまな復興の取り組みを紹介した。



南蒲生浄化センターを視察する潘国連事務総長



荒浜小学校を視察するムレケジ・ルワンダ首相



農家レストランを訪れたマルグリット・オランダ王国王女

### ■要人の視察への対応

日時	要人	視察行程
3月14日	潘淳沢 (パン・ステク) 国連事務総長夫人	①せんだいメディアテーク ②仙台市博物館 おもてなしセンター
3月15日	潘基文 (パン・ギムン) 国連事務総長 潘淳沢 (パン・ステク) 国連事務総長夫人	①南蒲生浄化センター ②南蒲生町内会
	潘淳沢 (パン・ステク) 国連事務総長夫人	エル・パーク仙台「女性と防災」展示
	タロヤ・ハロネン フィンランド共和国前大統領	①荒浜小学校 ②南蒲生浄化センター ③農家レストランもろや ④キートス広場 (七北田公園) ⑤仙台フィンランド健康福祉センター
3月16日	グエン・ティ・ゾアン ベトナム国家副主席	荒浜小学校
	マルグリット・フランチェスカ オランダ王国王女 アナスターズ・ムレケジ ルワンダ共和国首相	①荒浜小学校 ②クローバーズファーム ③井土地区農地 ④農家レストラン ちょっこら 荒浜小学校
3月17日	プロスペール・バヅムバンザ ブルンジ共和国第一副大統領	①せんだいメディアテーク ②荒浜小学校 ③中野5丁目津波避難タワー

# 4 東北各県の取り組み

今回の会議を契機に、世界や全国の人々の東北の復旧・復興が進む姿をアピールするとともに、東北各地でのグローバルな交流の拡大や風評被害の払拭を図るため、仙台市と東北六県との連携・協力による事業を推進した。

未曾有の大災害の経験・教訓と、それを踏まえた復興事業や新たな防災・減災への取り組みを世界に伝えることは被災地の責務であるとの認識のもと、東北各地でのスタディツアーや東北防災・復興

パビリオンの展示、各県独自の発信事業を企画・実施した。また、震災後、東北六県への外国人観光客が震災前の水準を回復していない状況を踏まえ、エクスカージョン、歴史・文化体験、レセプションでの食材等の提供などを通じ、参加者に直に東北の魅力を実験いただく機会を設けた。

これらの事業実施に当たり、実行委員会では東北六県をメンバーとする担当者会議を開催し、協議、調整、情報交換を重ねながら取り組みを進めた。

## ■東北各県の協力と連携

	東北の魅力発信・観光連携	東日本大震災の経験・教訓の発信
青森県	①実行委員会主催歓迎レセプションにおける食材・飲料の提供  ②東北おもてなしセンターにおける特産品および観光パンフレットの提供  ③東北ガイドブックへの画像・資料の提供  ④エクスカージョンの企画・運営	①東北防災・復興パビリオンにおける展示と情報発信  ②スタディツアーの企画・運営
岩手県		
宮城県		
福島県		
秋田県		
山形県		

**Recommendations in Tohoku** 東北の魅力を伝える

**Souvenirs** | 土産  
Many kinds of artifacts have been produced locally in Tohoku. The traditional methods of making these artifacts have been handed down until today. Each item, machine-free and the result of fine craftsmanship, has outstanding delicate beauty.

**Tsugaru-nuri (Lacquerware)**  
Lacquerware is made by repeatedly applying sap collected from the lacquer tree to a curved wooden base. Tsugaru-nuri Lacquerware has a unique and labor-intensive procedure with which artisans, without the touch of cones! The lacquerware comes with a piece of cloth, coat it with the sap, acquire a dome form, tone it with a grid stone and polish it. It takes more than two months to produce one item.

**Magewappa (Bent Woodwork)**  
Magewappa are oval-shaped boxes processed from Alfa cedar of sufficient strength. Magewappa became wide-spread because magewappa used to be recommended as a side job of lower-class samurai in the feudal era. These boxes are appreciated for their simple shape of which you never grow tired, as well as their water-resistant nature, nice scent, and anti-bacterial effect.

**Nambu Cast Ironware**  
Nambu Cast Ironware is a traditional ironware which dates back about 400 years. It is produced by casting melted iron with a high temperature into a mold. Most of the process is carried out manually. Nambu Cast Ironware varies from the traditional kettles to the cookware such as pots and pans. Refined designs and newly-developed colors contribute to the popularity in the international market.

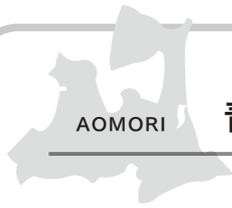
**Obori Soma-yaki Ware**  
This is ceramic ware handed down for over 300 years in Nambu, Fukushima. It has characteristic horse patterns as well as surface cracks from the unique coloring-glazing. Potters were forced to migrate because of the Great East Japan Earthquake, and they are now actively working on the original method as a new era.

**Kasafuku**  
Kasafuku, happy ornaments, are ornaments created from more than 200 years ago in Sendai City, Miyagi Prefecture. The idea originated from ornaments dedicated to temples and shrines in order to bring prosperity to descendants and happiness to children. Kasafuku are cloth ornaments hanging with lucky charms such as cones, knives and oak, etc.

**Kokeshi**  
Kokeshi are wooden dolls handed down in the Tohoku district. The faces and patterns vary depending on the region. There are now 12 types of kokeshi in the variety of Tohoku. They are produced in Miyagi Prefecture.

東北の魅力を伝える東北ガイドブック(抜粋)

実行委員会の取り組み



## 青森県の取り組み

### 1. 開会式及び総合フォーラムへの参加

総合フォーラムでは、三村知事が「東日本大震災と青森県～創造的復興に向けた取り組みについて～」と題したプレゼンテーションを行い、被災地の中でもいち早く港湾機能を復旧させた八戸市の状況をはじめ、青森県内の被害状況から復興に至る取り組みを紹介した。また、避難を最重要視し、ハード・ソフト一体となった取り組みである「防災公共」、三方海に面した青森県の地理的優位性に着目した「ロジスティクス戦略」など青森県独自の政策を紹介し、復興支援への感謝を伝えた。

### 2. 東北防災・復興パビリオンへの出展

東北防災・復興パビリオンでは、青森県内の被害状況や復旧・復興に向けた取り組みを中心に紹介した。展示では、4パターンの動画（被災時の様子、再建までの様子、三陸復興国立公園、八戸港）を用意し、タッチパネルで簡単に操作できるデジタルサイネージ（日本語版・英語版）や、iPadをかざすことで動画や翻訳文を観ることができるシステムを導入し、外国人来場者をはじめ多くの方々からご好評をいただいた。



青森県ブース

### 3. 実行委員会主催レセプション及び東北おもてなしセンターでの対応

ホテルメトロポリタン仙台で開催された実行委員会主催レセプションでは、大間産のまぐろ、活締めヒラメ、ヤリイカ等の地元海産食材や、青森シードル等りんごにちなんだ銘酒を提供した。また、佐々木副知事が出席し、県産食材及び郷土料理等のPRを行うとともに、復興支援への感謝を伝えた。東北おもてなしセンターでは、会議出席者等にご賞味いただけるよう、りんごのお菓子等青森県の銘菓を提供した。

### 4. パブリック・フォーラムの開催

第3回国連防災世界会議の関連事業として、3月15日に青森県八戸市において、県主催の「防災公共フォーラム」を開催し、約1,200人が出席した。三村知事がパネリストとして出席し、津波には堤防等構造物による対策だけでは限界があり、何よりも避難が重要と訴え、県内各地での避難経路や避難場所の設定を行った青森県独自の取り組みである「防災公共」について解説した。



パブリック・フォーラムの様子

(青森県総務部生活再建・産業復興局)

IWATE

## 岩手県の取り組み

### 1. 防災・復興に関する本県からの提言を世界に発信

#### (1) 趣旨

本県が東日本大震災津波からの復興に取り組む中で得られた教訓や、防災・復興に関する取り組み事例及びそれらを踏まえた提言を世界に発信。

#### (2) 提言の発信

- ・国連及び県HPでの発信、提言を取りまとめた日英冊子の作成・配付(約2,100部)。
- ・県主催シンポジウム等での知事発表、仙台市内・県内におけるパネル等の展示 ほか。

### 2. 第3回国連防災世界会議への主な対応

#### (1) 本体会議ワーキングセッション(3月16日)への出席

「地域リスクに取り組むコミュニティ」に達増知事が出席し、防災・復興に関する提言をベースとして、若者・女性の活躍支援や地域連携型の防災教育の重要性を発信。

#### (2) 内閣府主催フォーラム(3月14日)への出席

東日本大震災総合フォーラム「我が国の防災の展望:究極の防災対策を目指して」のオープニングセッションで、達増知事が防災・復興に関する本県からの提言を発表。

#### (3) 国連防災世界会議パブリック・フォーラム

岩手県主催シンポジウム(3月17日)の開催。

【開催場所】一関市

【テーマ】文化財と防災

【内容】

- ・達増知事からの防災・復興に関する提言
- ・専門家による講演・パネルディスカッション  
(講演)土岐憲三(立命館大学教授)  
ムニル・ブシナキ(元ユネスコ文化局長補佐、世界遺産アラブ地域センター長)
- (パネルディスカッション)  
コーディネーター/土岐憲三  
パネリスト/ムニル・ブシナキ、近藤誠一(前文化庁長官)、林春男(京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授)、山田俊和(中尊寺貫首) 計4名
- ・世界遺産平泉「中尊寺」視察(中尊寺防火訓練等を視察)

【参加者】160名

※なお、3月16日には陸前高田市において、陸前高田市主催シンポジウム「高齢者・障害者と防災シンポジ

ウム」～復興の力:ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりに向けて～が開催された。

#### (4) 被災地公式視察(スタディツアー)

【コース】

3月16日:陸前高田・大船渡(復旧復興現場と奇跡の一本松、大船渡津波伝承館)

3月17日:メディアツアー(釜石市での伝承活動、三陸鉄道乗車及び築堤視察)

3月18日:釜石・遠野(釜石市鶴住居地区、遠野市総合防災センター)

【参加者】計50名

### 3. ISOセキュリティ専門委員会盛岡総会の開催支援

#### (1) ISOセキュリティ専門委員会盛岡総会 記念シンポジウム(3月9日)

第3回国連防災世界会議に併せて開催された、防災に関する国際規格に係るISOセキュリティ専門委員会の第1回総会において、岩手県における復興の取り組みを世界に発信。

【内容】

- ・達増知事からの防災・復興に関する提言
- ・産学官民から震災経験を通じた防災・復興に関する報告(講演)及び総会参加者との意見交換  
(講師)本田敏秋(遠野市長)、林春男(京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授) ほか
- ・パネル展(会場ロビー)

(内容)三陸鉄道写真パネル展、盛岡地方気象台パネル展

【参加者】150名(22カ国)

※総会終了後、記念レセプションを実施



シンポジウムの様子

#### (2) ISOセキュリティ専門委員会盛岡総会 記念スタディツアー(3月11日)

【コース】

①宮古コース:宮古市(田老防波堤、三鉄震災学習列車等)→盛岡市

②遠野・釜石コース:遠野市総合防災センター→三鉄震災学習列車等

【参加者】計95名

(岩手県環境生活部若者女性協働推進室)



MIYAGI

## 宮城県の取り組み

宮城県では、①東日本大震災の支援に対する世界への謝意、②復興状況の発信、③震災の風化防止及び風評払拭、④誘客促進という4つの観点から各事業を実施した。

### 1. 開会式及び総合フォーラムへの参加

村井知事が開催県を代表して開会式に出席した。また、若生副知事が総合フォーラムにおいて、東日本大震災からの本県の復興状況と今後の課題に関するプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは、復興支援への謝意を伝えるとともに、復興後の将来を見据え、震災前への単純復旧にとどまらない「創造的復興」に取り組む本県の事業例についても紹介した。

### 2. 東北防災・復興パビリオンへの出展

東北防災・復興パビリオンでは、リアス・アーク美術館（気仙沼市）の所蔵品である津波被災物の一部を展示したほか、震災直後から避難所においてパーティション等として使用された強化ダンボールのサンプルを展示した。



東北防災・復興パビリオンにおける宮城県ブース

### 3. 防災産業展 in 仙台

震災津波の被害から復旧を遂げた「夢メッセみやぎ」を会場として、防災技術の展示会を内閣府、宮城県及び日刊工業新聞社の主催により開催した。

会場には、実際に震災時に活躍した製品に加

え、エネルギーや情報の途絶といった震災の教訓を踏まえて開発された給電車両や情報通信システムなどの最新技術が展示された。また、併催事業として「防災産業シンポジウム」が開会され、防災産業育成に関する提言がなされた。

### 4. 実行委員会主催レセプション及び東北おもてなしセンターでの対応

若生副知事が実行委員会主催レセプションに出席し、復興支援への謝意を伝えるとともに、県産食材及び郷土料理等のPRを行った。本県からは、地元食材である仙台牛やフカヒレに加え、県内ブランドイチゴで作ったスパークリングワイン「ミガキイチゴ・ムスー」及びデリシャストマトジュースをそれぞれ提供した。また、東北おもてなしセンターには県内銘菓及び県産茶葉を使用した「伊達茶」を提供した。

### 5. パブリック・フォーラムの開催

県主催のパブリック・フォーラムとして、企業と防災、女性と防災、都市計画、農業・農村の強靱化、下水道防災等をテーマとしたシンポジウム6件及びブース展示1件を実施した。

### 6. スタディツアー及びエクスカーション

スタディツアーとして、①仙台空港及び仙台港等のインフラ、②石巻魚市場、東北電力女川原子力発電所等の現状及び女川町の復興状況等を企画した。また、エクスカーションとして、日本三景松島及び世界遺産平泉（岩手県）を組み合わせ、県内沿岸部コースを企画した。



スタディツアーでの仙台港に関する説明の様子

(宮城県経済商工観光部 国際経済・交流課)

FUKUSHIMA

## 福島県の取り組み

### 1. 福島復興を考える県民シンポジウム (パブリック・フォーラム)

平成27年3月15日に「福島復興を考える県民シンポジウム」を開催し、国内外から約380人の方々にご参加いただいた。

内堀知事の『福島復興の光と影』と題した基調講演を皮切りに、国際赤十字・赤新月社連盟からウォルター・コッテ氏とマーティン・クロットマイヤー氏をお招きし、赤十字の防災減災への取り組み等について、御講演いただいた。

福島テレビの浜中順子氏からは、取材を通じた情勢についての報告があった。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに日本放送協会の城本勝氏をお迎えし、内堀知事、大学教授、県内で御活躍の民間人により、『世界に誇れるふくしまの復興』をテーマとして熱い議論が交わされた。

さらなる復興の加速に向け、ふくしまの未来を考える素晴らしい機会となった。

### 2. スタディツアー

#### (1) 福島第一原子力発電所の視察

3月16日から18日までの3日間、資源エネルギー庁と共催で、福島第一原子力発電所の視察ツアーを行い、原子力発電所の廃炉の取り組み状況について情報発信した。

#### (2) 復興ふくしま

～津波被害から復興と漁業の取り組み～

津波被害を受けた港湾の復旧状況や漁業の試験操業についての理解を促進するために相馬港を視察した。また、震災や避難を経たコミュニティの維持、高齢化や防災等を考慮した復興公営住宅を視察した。

#### (3) 復興ふくしま ～食の安全安心～

「食の安全・安心」の取り組みについての理解を深めていただくために、福島県農業総合センター、酒蔵、学校給食センター等を視察した。



スタジアムでの給食モニタリング検査に関する説明の様子

### 3. エクスカーション

#### (1) 復興ふくしま

～震災から立ち上がる福島県～

津波被害が甚大であった新地町、防災拠点としての復興交流支援センター(相馬市)、食の安全・安心の取り組みとしていちご園、JA新ふくしま、県農業総合センター、酒蔵を視察した。また、文化財センター白河館まほろんを訪問し、震災からの文化財保護等について説明を受けた。

#### (2) 復興ふくしま ～創造と伝統の融合～

復興への取り組みとして、除染情報プラザ、復興公営住宅、再生可能エネルギー研究所、かーちゃんの力、會空等を視察したほか、鶴ヶ城や酒蔵を訪問した。

### 4. 展示(東北防災・復興パビリオン)

東北防災・復興パビリオンの福島県ブースでは、3月14日から18日までの5日間、「①福島県の概要」、「②放射線量の推移」、「③除染の進捗」、「④食品安全確保体制」、「⑤廃炉監視」、「⑥環境創造」の6つのテーマで大型パネルを展示するとともに、「①福島第一原発の廃炉」、「②除染」、「③復興への取り組み」について映像紹介を行い、正確な情報発信に努めた。

また、会場内のプレゼンテーションステージでは、3月17日に「ふくしまから“チャレンジ”はじめよう!」をテーマにチームキビタンによる情報発信も行った。

来場者には、本県のパンフレットや起き上がり小法師、会津絵ろうそく等をノベルティとして配布し、福島県のPRも行った。

(福島県危機管理部災害対策課)

B

実行委員会の取り組み

# 5 プレイベント、その他関連イベント

## 5-1 プレイベント

### 5-1-1 1年前イベント

#### 第3回国連防災世界会議 1年前シンポジウム

～震災の経験と教訓を仙台・東北から世界へ～

国連防災世界会議開催を1年後に控え、会議についての理解を深めるとともに、会議の場で、東日本大震災の被災地である仙台・東北から世界へ、そして未来へ何を伝えていくべきなのかを考えるシンポジウムを行った。

シンポジウムでは、防災・減災、復興に取り組むさまざまな機関・団体によるパネルディスカッションなどを行い、民間団体・企業関係者、自治体関係者、大学関係者や市民など約330人が来場した。

また、シンポジウムにあわせて、カルタ遊びを通じて、子どもたちが楽しみながら防災意識を高める「3.11シンサイカルタワークショップ」や、防災・復興に関する企画展示を行った。

#### <概要>

- 日時／平成26年3月1日 15:00～16:40
- 会場／仙台市情報・産業プラザ多目的ホール
- 主催／仙台市
- 共催／東北大学災害科学国際研究所、(株)日本政策投資銀行、(株)河北新報社

#### <プログラム>

- ◎挨拶 仙台市長 奥山 恵美子
- ◎基調講演 「国際防災と日本の役割について」  
講演者 内閣府大臣官房審議官(防災担当)

佐々木 克樹

#### ◎パネルディスカッション

テーマ 「第3回国連防災世界会議」仙台開催と「防災・減災」、「復興」の未来

#### ●パネリスト

内閣府大臣官房審議官(防災担当)  
佐々木 克樹

東北大学災害科学国際研究所副所長  
今村 文彦

(株)日本政策投資銀行常務執行役員  
橋本 哲実

仙台市副市長 伊藤 敬幹

#### ●コーディネーター

(株)河北新報社論説委員会委員長  
沼倉 良郎



シンポジウムの様子



シンサイカルタワークショップの様子



防災・復興に関する企画展示

## 5-1-2 半年前イベント

### 第3回国連防災世界会議 半年前フォーラム

#### 「復興・防災の活動とまちづくり～伝える防災 感じる防災～」

会議開催に向けて、市民から世界へ東日本大震災の経験や教訓を伝えていくことについて考えるフォーラムを開催した。

このフォーラムは、地域で活躍する若者たちに復興・防災の活動とまちづくりをテーマに語ってもらいながら、会場からのコメントなどを集め、議論していく全員参加型のイベントとして実施し、市民ら約100人が来場した。

第1部では、芸術、青少年ボランティア、地域復興、国際協力などの分野で活動中の若者ら6人が、震災後の活動を振り返りながら、楽しく分かりやすい防災活動の必要性などを話し合った。また、来場者も交えたワークショップである第2部では、6つのグループに分かれて、震災の経験や教訓を世界に伝えるためにはどうしたらよいか話し合った。

#### <概要>

- 日時／平成26年8月31日 14:00～16:00
- 会場／仙台市市民活動サポートセンター  
市民活動シアター

- 主催／第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会、仙台市

#### <プログラム>

- 第1部 出演者による意見交換
- 聞き手 アートディレクター/演出家/ENVISI代表  
吉川 由美
- 美術家/(一社)東北ツリーハウス観光協会  
事務局長  
斉藤 道有
- (一社)コミュニティ・4・チルドレン  
防災・福祉学習コーディネーター  
菅原 清香
- (独)国際協力機構東北支部(JICA東北)  
復興支援ユニット調査役  
田中 真美子
- ARCT事務局長/ダンス幼稚園実行委員  
会代表  
千田 優太
- 仙台市南蒲生町内会復興部  
吉田 祐也
- 第2部 会場のみなさんとの意見交換



出演者による意見交換の様子



来場者を交えた意見交換の様子



来場者を交えた意見交換の様子

### 5-1-3 直前イベント

## 第3回国連防災世界会議 直前イベント

「ひとのちから～祈りを奏でる、祈りをおどる～」

東日本大震災からの復興の原動力である「ひとのちから」に着目し、被災者の心の復興と大災害の教訓を後世に伝えるために大きな役割を担う文化や芸術に触れることで、震災の経験と教訓を伝えるきっかけとすることを目的に開催し、延べ1,500人の市民が来場した。

イベントでは、東日本大震災後に行われた復興コンサートなどの活動を演奏と展示で振り返るとともに、「ひとのちから、音楽のちから」をテーマに、奥山市長を聞き手に、ピアニストの小山実稚恵さんと、復興コンサートを撮り続けた写真家の佐々木隆二さんが、音楽の人の心に働きかける力や、音楽を聴いた被災地の人々の反応などについて語った。

演奏やトークの合間には、神戸新聞の連載記事「阪神・淡路⇄東日本往復書簡」の朗読や、国連防災世界会議のパブリック・フォーラムの紹介と参加の呼び掛けを行った。

#### <概要>

- 日時／平成27年2月1日  
12:00～18:00(展示10:00～18:00)
- 会場／せんだいメディアテーク オープンスクエア

- 出演<sup>\*</sup>／藤原貢(俳優)、金津流石関獅子躍、白鳥英一(俳優)、仙台チェンバーアンサンブル、クレモナからの贈りもの、防災からまちづくりを考える実行委員会、(公財)せんだい男女共同参画財団、小山実稚恵(ピアニスト)、佐々木隆二(写真家)、奥山恵美子(仙台市長)、佐藤悠(第3回国連防災世界会議公式ロゴマークデザイナー)、安部靖(金津流石関獅子躍 第14代中立)、清水忍(同第15代踊り手)、千田祥子(音楽の力による復興センター・東北)、仙台フィル弦楽四重奏団カルテット・フィデス、仙台オペラ協会、加川広重(画家)、高橋静香(カトルカールバレエスタジオ)、小川有紀子(仙台フィル ヴァイオリニスト)、市民有志による第九合唱団

※出演、登壇順

- 主催／第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会、仙台市、(公財)音楽の力による復興センター・東北

- 協力／(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団、(一社)仙台オペラ協会、小岩秀太郎((公社)全日本郷土芸能協会)、神戸新聞社



イベントの様子



「クレモナからの贈りもの」による演奏



トークプログラム「ひとのちから、音楽のちから」



パブリック・フォーラムPR展示

- 主催／仙台市、第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団
- 協力／(公財)音楽の力による復興センター・東北



復興コンサートの様子の写真展示



記念演奏会の様子

## 5-1-4 会議開催記念演奏会

### 国連防災世界会議仙台開催記念演奏会

「音楽の力による復興・そして未来へ」

会議開催を記念し、被災地における復興コンサートなどの支援活動を、映像や音楽で振り返る演奏会を開催。本体会議参加者のほか、約1,000人の市民が来場し、仙台フィルハーモニー管弦楽団による演奏を楽しんだ。

#### <概要>

- 日時／平成27年3月13日 19:00～
- 会場／東京エレクトロンホール宮城
- 出演／[指揮] パスカル・ヴェロ(仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者)  
[ヴァイオリン] 西本幸弘(仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)  
[管弦楽] 仙台フィルハーモニー管弦楽団



記念演奏会の様子

## 5-2 その他関連イベント

防災・減災・復興に関わる行事やイベントとして、地域団体と実行委員会との共催イベント(5件)、実行委員会後援事業(53件)、仙台市や関連団体などが自主的に企画・実施した会議の機運醸成や防災・復興に資する関連イベント(88件)が行われた。(各イベントの名称・開催日などは資料編6「主催・共催・後援事業など」参照)

## 6 広報・情報発信

第3回国連防災世界会議に関する情報および仙台・東北の復興状況、被災地の経験や教訓、防災への取り組みなどについての情報を国内外に発信すること、さらには会議が仙台で開催されることについての周知および開催に向けた機運醸成を図ることを目的に、広報・情報発信を実施した。

### 6-1 ウェブサイト・フェイスブック・ツイッター

平成25年11月に日本語版ウェブサイト、平成26年7月に英語版ウェブサイトを開設し、会議や仙台・東北の東日本大震災からの復興状況、被災地の経験や教訓、防災への取り組みなどの情報を現地取材(取材回数147回)などにより収集し、国内外に発信した。

平成26年6月にツイッター、同年7月にフェイスブックを開設し、会議の準備状況や関連イベント開催周知などを実施した(平成27年3月31日閉鎖)。

- ・ウェブサイト総アクセス数:508,397件  
(平成27年3月31日時点)
- ・1日の最大アクセス数:33,887件  
(平成27年3月14日会議開催初日)
- ・ツイッター:フォロワー数457名  
(平成27年3月20日時点)
- ・フェイスブック:いいね数989件  
(平成27年3月20日時点)



ツイッター



フェイスブック



ウェブサイト

### 6-2 記者発表

平成25年5月の日本政府による会議の仙台開催決定から平成27年3月末までに、市長による記者会見(9回)、市政記者クラブへのプレスリリース(25回)および内閣府、外務省との共同記者説明会(1回)を実施した。

### 6-3 市政だより

仙台市の市政だよりの特集ページ、市政トピック、イベント参加者募集コーナーなどを活用し、広く市民に会議に関する情報発信を行った。平成27年2月号では2ページの特集を掲載し、会議参加者への市民のおもてなしの取り組みや、市民が参加できるパブリック・フォーラムについて情報発信を行った。また、会議開催直前の平成27年3月号では裏表紙全面を使用し、会議開催周知や会議期間中の交通規制などについて情報発信を行った。



仙台市政だより平成27年3月号



仙台市政だより平成27年2月号

■市政だより

平成25年

12月号 特集(会議開催周知)

平成26年

- 1月号 市政トピック(会議公式ロゴマーク決定)
- 4月号 市政トピック(1年前シンポジウム開催報告)
- 5月号 募集(語学ボランティア募集)
- 7月号 募集(パブリック・フォーラム主催者募集・HFA市民セミナー参加者募集)
- 8月号 募集(半年前フォーラム参加者募集)
- 9月号 特集(会議開催周知)  
・国連、「女性と防災」テーマ館、語学ボランティアなどの準備の動きを紹介

10月号 市政トピック(半年前フォーラム開催報告)

平成27年

- 1月号 募集(直前イベント参加者募集)、私の防災宣言(市民協働テーマ館企画者の取り組み)
- 2月号 特集(パブリック・フォーラム等の情報)、私の防災宣言(仙台市連合町内会町会)
- 3月号 裏表紙全面(会議開催案内、交通規制等のお知らせ)

6-4 新聞・フリーペーパーへの広告  
記事掲載や地元ラジオでの広報

幅広い層の市民に会議に関する情報が伝わるように新聞・フリーペーパー等に広告記事を掲載(62回)するとともに、エフエム仙台、ラジオ3での情報発信(22回)を行った。



「河北ウィークリーせんだい」ラッピング広告(平成27年3月5日号)



河北新報広告(平成27年2月11日)

6-5 在仙メディアとのタイアップ  
による情報発信

在仙メディアとの連携を図り、各メディアの自主企画による会議の周知広報、番組制作およびスポットCMなどの情報発信を実施した。

【参加した地元メディアと実施内容】

- ・河北新報 市民防災メッセージ「おもてなし防災人」の新聞紙面やウェブサイトへの掲載、ウェルカムボードの設置など
- ・宮城テレビ 自社制作番組での防災特集「OH!バンドス防災DAY」や市民の防災メッセージ「107万人のメッセージ」を放映
- ・仙台放送 「減災こども国際フォーラム」の開催や特別番組「こどもたちからのメッセージ」の放映
- ・東北放送/宮城テレビ/仙台放送/東日本放送/エフエム仙台 テレビやラジオでの会議周知スポットCMの放映(2月中旬～)



会議周知テレビスポットCM



仙台駅に設置したウェルカムボードの前での「すずめ踊り演舞」の様子(平成27年3月15日)

B

実行委員会の取り組み

## 6-6 各種イベントでのプレゼンテーションやブース出展

防災・復興に関するシンポジウム・セミナー・展示会や区民祭りなどの地域のイベントで、プレゼンテーション(56回)、ブース展示(22回)、パネル展示、会議開催周知チラシ・グッズの配布(46回)を行うなど多角的な会議広報・PR活動を行った。



PRブースの様子

## 6-7 広報グッズ、印刷物の作成、配布

公式ロゴマークや国連のキービジュアルを活用した缶バッジ、ピンバッジや紙バッグ、クリアファイルなどのオリジナル広報グッズや会議の開催周知、一般公開されるパブリック・フォーラムへの参加促進のためのポスター、チラシ、パブリック・フォーラムガイドブックなどを作成し、広く配布、掲出した。



ポスター

また、仙台市の公用封筒、名刺、その他印刷物、配布物などに会議のロゴマークを記載するなど、市役所全体での会議広報・PRに取り組んだ。

### ■オリジナル広報グッズ

- ・缶バッジ 95,000個
- ・ピンバッジ 15,000個
- ・紙バッグ 5,000個
- ・ボールペン 5,500本
- ・クリアファイル 20,000枚
- ・卓上のぼり旗 300本

### ■印刷物

- ・ポスター 5,500枚
- ・チラシ(会議周知) 31,500枚
- ・チラシ(パブリック・フォーラム周知) 85,100枚
- ・パブリック・フォーラムガイドブック 30,000部
- ・パブリック・フォーラムプログラム 3,000部



缶バッジ



ピンバッジ



紙バッグ



ボールペン



クリアファイル



卓上のぼり旗



チラシ



パブリック・フォーラムガイドブック

## 6-8 国際会議における 広報・情報発信

平成26年6月、タイ・バンコクで開催されたUNISDR主催のアジア防災閣僚級会議に伊藤副市長が出席し、第3回国連防災世界会議の開催都市として本市の紹介や防災の取り組みをアジア各国の閣僚に向けて発信し、会議への積極的参加を呼び掛けた。

同年7月に米国・ニューヨークで開催された国連経済社会理事会(ECOSOC)ハイレベル・セグメントの日本政府主催サイドイベントには奥山市長が出席し、世界各国の閣僚に向け、震災復興支援に対する感謝を述べ、震災から得た教訓および防災の取り組みを紹介し、会議への積極的参加と協力を求めた。また、本セグメント期間中に日本政府主催のパネル展示「明日へのレジリエンス～国連防災世界会議仙台開催に向けて～」が国連本部会議棟内で開催され、仙台市の被災時の状況～現在の防災・減災の取り組みに関するパネル展示を行った。

政府間準備会合は、平成26年7月と11月にスイス・ジュネーブで開催された。第2回会合には伊藤副市長が出席し、開催に向けた準備状況について発表し、同世界会議への歓迎の意を発信したほか、同会議が、障害者を含む全ての人にとって参加しやすいアクセシブル・カンファレンスとなるようUNISDR、日本政府、日本財団および仙台市で協力していくことを表明した。

これらの国際会議では、ピンバッジ、缶バッジ、東北ガイドブックなどの広報グッズを配布し、仙台開催のPRに努めた。



ECOSOCハイレベル・セグメントにおける日本政府パネル展示で挨拶する奥山市長



第2回政府間準備会合でのアクセシブル・カンファレンス発表の様子

## 6-9 仙台・東北の魅力を紹介 したガイドブック

東北六県の協力により、東北の魅力を発信する「東北ガイドブック」を2回に分けて発行(平成26年7月先行版、平成27年2月正式版)。先行版を、平成26年7月にニューヨークで開催された国連経済社会理事会などで配布するとともに、正式版を来仙した本体会議参加者に配布し、東北の観光情報を世界に向けて発信した。

また、平成27年2月に「るるぶ特別編集仙台『国連防災世界会議特集号』」を発行。滞在中、仙台市中心部および秋保、作並ほかの周辺地域を楽しんでいただくための観光情報を提供した。

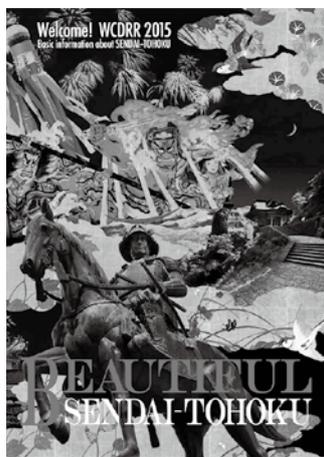
■東北ガイドブック

○先行版(平成26年7月発行)

- ・発行部数 500部
- ・配布実績  
 国連経済社会理事会(7/7~11 ニューヨーク)  
 第1回政府間準備会合(7/14・15 ジュネーブ)  
 外務省主催 在京大使館国際機関説明会(7/18 東京)

○正式版(平成27年2月発行)

- ・発行部数 2,100部
- ・配布実績  
 本体会議会場  
 で会議参加者  
 に配布

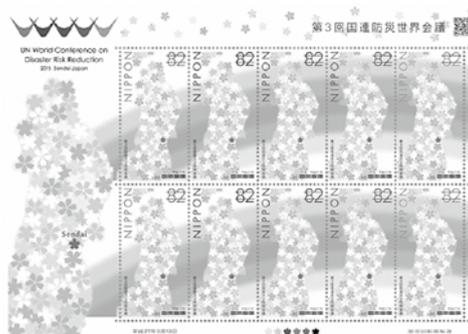


東北自治宝くじ(平成27年1月28日~2月10日販売、1枚100円)に、会議と開催地の仙台市をテーマとした図柄が掲載された。



6-10-2 特殊切手

平成27年3月13日に特殊切手「第3回国連防災世界会議」(82円切手、10枚綴り)800万枚(80万シート)が発行された。東北地方を中心とした東日本を桜で表現したデザインで、背景には会議の公式ロゴマークの5つの色を虹の形で配置。濃い紅色の桜で、会議開催地の仙台市を表現した。



■るるぶ特別編集仙台「国連防災世界会議特集号」(平成27年2月発行)

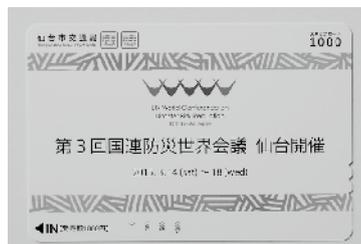
○概要

- ・発行部数 15,000部
- ・配布実績  
 会議参加者  
 などに配布



6-10-3 スキップカード

会議を市民に周知し、市全体で盛り上げるため、会議公式ロゴマークをデザインした1,000円のスキップカードを平成27年2月10日~3月18日の期間で約35,000枚販売した。



6-10 その他広報

6-10-1 宝くじ

会議の開催を記念して、第2334回関東・中部・

## 市民参加プロジェクト

### 7-1 「伝えたい世界へ、未来へ」プロジェクト

平成26年8月～12月、市民に「世界の方々へのメッセージや、東日本大震災時の支援へのお礼の気持ち」、「震災を通じて気づき、学んだことや、これから未来へ向けて伝えていきたいこと」など、“世界へ未来へ伝えたいこと”を短冊に書いてもらう「伝えたい世界へ、未来へ」プロジェクトを実施し、区民祭りなどの15カ所のイベント会場で合計1,000個を超えるメッセージが寄せられた。

メッセージは、実行委員会のウェブサイトに掲出するとともに、会議期間中には、実行委員会が仙台市博物館に開設した「東北おもてなしセンター」に七夕飾りの短冊として展示し、世界各国から来仙される会議参加者に届けられた。



短冊メッセージを見る会議参加者(東北おもてなしセンター)



メッセージを寄せてくれたガールスカウトの子どもたち(泉区民まつり)



イベント会場でメッセージを書いている様子(仙台市PTAフェスティバル)

## 7-2 子どもたちと世界を繋ぐ

### 7-2-1 タンブラー プロジェクト

実行委員会が主催する歓迎事業の一環として、会議開催への児童生徒の関心を高めながら、会議参加者に子どもたちからのメッセージを伝える「タンブラープロジェクト」を実施した。

このプロジェクトは、子どもたちが絵やメッセージを書いた台紙の入ったタンブラーを歓迎グッズとして会議参加者にプレゼントし、会議会場でマイカップとして使用していただく取り組みで、仙台市内の全小中学校から約4,000人が参加した(小学校約1,500人、中学校約2,500人)。

参加した子どもたちは、「仙台に来てくれる世界中の方々へのおもてなしの心を込めて書いた」、「震災から早く復興してほしいので、明るい色にした。国連防災世界会議に少しでも役立ちたい」などと話し、自分なりのアイデアを凝らした図柄の完成に熱心に取り組んだ。

この絵やメッセージを入れたタンブラーは、実行委員会から本体会議の参加者に歓迎グッズの一つとしてプレゼントされ、仙台の子どもたちのおもてなしの気持ちを伝えた。



タンブラー作りの様子



子どもたちの絵やメッセージが入ったタンブラー



タンブラーを使う会議参加者(仙台国際センター)

### 7-2-2 国際理解教育リーフレットを活用した授業

平成27年1月、会議に対する児童生徒の関心を高めるとともに、国連についての理解を深めるため、仙台市教育委員会が国際理解教育のためのリーフレット(小学生版・中学生版)を作成。市内の小学5・6年生と、中学2・3年生全員(約35,000人)に配布し、それを活用した授業が市内の全小中学校で行われた。



リーフレットを活用した授業の様子

### 7-2-3 絵画・ポスターコンクール

平成26年7月、仙台市PTA協議会では、「守ろう大切な命」キャンペーンとして毎年実施していた絵画・ポスターコンクールを、平成26年度は会議に向けた特別なコンクールとして実行委員会と共催で実施した。「守ろう大切な命」、「つくろう笑顔あふれる街」、「復興への想い」、「未来への夢」をテーマに、仙台市内の小学生・中学生から夢や希望が感じられる作品を募集した。

応募総数は860点(小学生550人、中学生310人)。作品は平成26年11月9日に開催された仙台市PTAフェスティバルで展示されたほか、優秀作品を原画とするカレンダーとポスターが作成された。また、同フェスティバルで行われた表彰式では、特別に設けられた国連防災世界会議仙台開催実行委員会会長賞を受賞した2人の児童生徒に表彰状が授与された。

#### 【会長賞受賞者】

南小泉小学校 6年 松尾 日菜子さん

富沢中学校 2年 毛利 美結さん



表彰式の様子



松尾 日菜子さんの受賞作品



毛利 美結さんの受賞作品